明治三十八年六月二十五日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百八拾七號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治三十一年三月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雑誌

第百八十七號目次

名家演壇

寄書

名家談叢

質疑欄

中外彙報

大日本婦人衛生會記事

七月例會廣告

來七月一日第一土曜日午后一時半より神田區一ッ橋通り女子職業學校內に於て本會の例會を開く(晴雨共)御知友御誘引御來會有之度候也

一ペストに就て　醫學博士　北島多一君

一演題未定　醫學博士　朝倉文三君

本會事務所は去二月左に移轉致し候に付總ての御用は左に申越されたし舊番地へ宛御差出しの御書狀も少からず候に付此段申上置候也

東京市牛込區上宮比町八番地

爲替振込(牛込築土八幡町郵便局)

明治三十八年六月

大日本婦人衞生會

會員諸姉に告ぐ

日露兩國の交砲火を以て和睦するに至りてよりはやも十月あまりとはなりぬ。國運めでたくして戰はつねに我に利あれども其前途は尙はるかに遠し國をこぞつて共に力を致さむこと國民たるものゝつとめなれば國の爲め親をすて妻子をすてゝ進んで難にあたれる同胞の上を深く思ひやりて自らの力の及ぶかぎりはこれ等の人々の爲めに盡さむことはまた多く言葉を要せざる處なり然りながら世界に數多からぬ强大國を敵として戰ふことにしあれば一と度戰ふ毎に我同胞の傷き斃るゝものゝ甚だしきは萬を以て數ふるに至らん是が爲め本國に送らるゝ傷病者がいたでになやみて呻吟するさまのいかばかりかなさけなかるべき本會もかねてこれ等の人々の爲め慰の一品たりとも送らばやと思ひ居たる折柄近頃澁谷なる豫備病院にては病者に尤も必要なる帽子の夥しく不足せるよしを聞きければ是を寄送するとは誠に本會の和等しき事業と思ひ早速臨時會を開きて評議すべかりしも至急を要するの際已むなく役員會議にて種々評議の末本會非本金中より金貳百圓を出して同社へ寄附したり然りながら尙戰况の進むと共に傷病者も益々增加することとなればこれ誠に九牛の一毛にも若かさるを思ゆればひろくこれを會員諸姉にはかり一個たりとも多くてれが不足を補はむと欲してゝに左の定めを設く希くは諸姉幸ひに多少の同情をよせられむ事を（つゞく）

一、本會の傷病者に對する帽子寄送は澁谷豫備病院とす

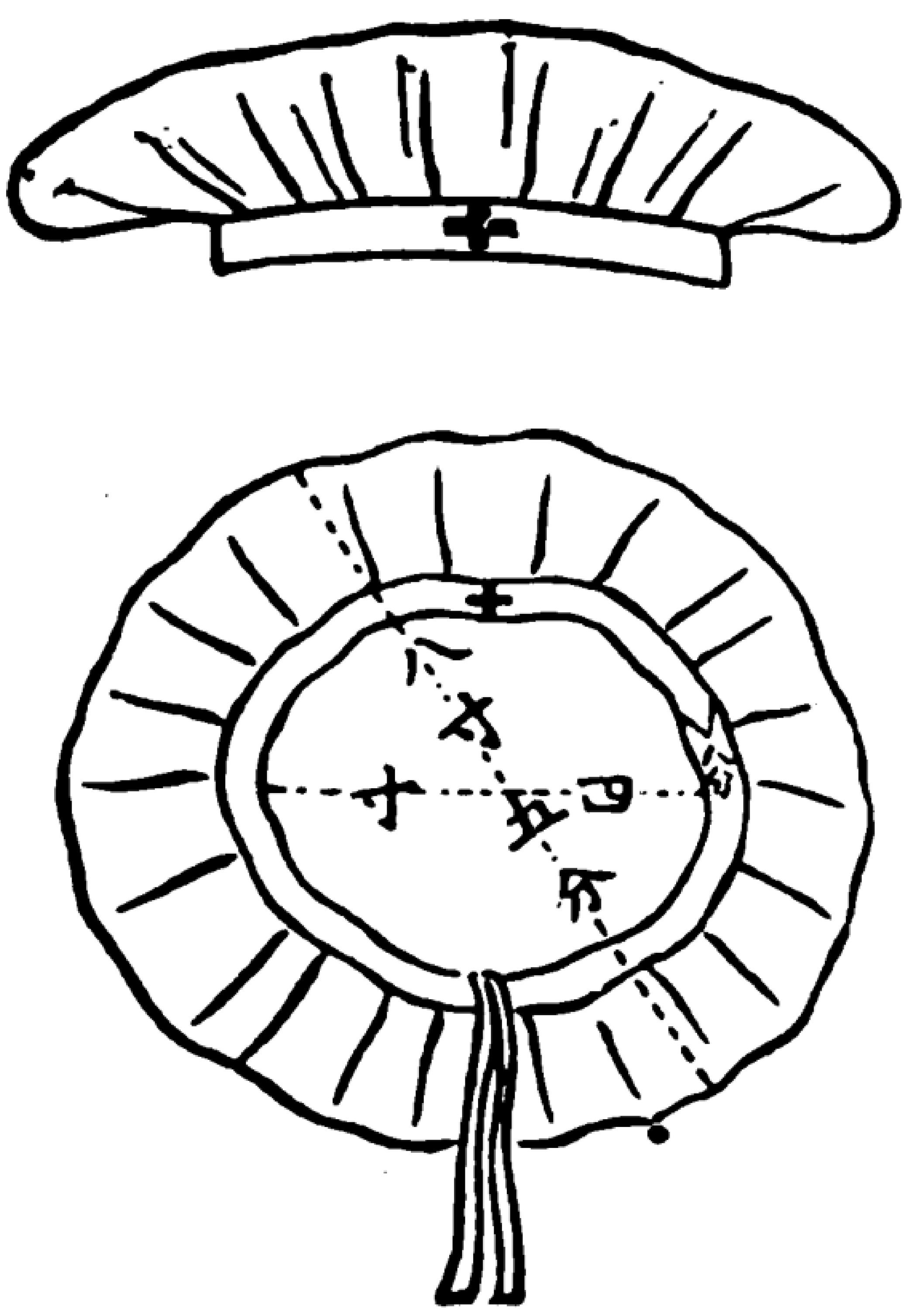
二、寄贈者は（現品、現金、）何れとも御隨意本會事務所（牛込區上宮比町八番地）迄御差出しあれば本會は直ちに之を取纏めて寄贈の運びをなす

三、寄贈の金品に對しては本會事務所より受領證を交附すべきも豫備病院よりの受領證は一と纏めにしたるものなれば一々交附せず

四、本會は戰爭終局まで此事業を繼續し何時にても多少に拘はらず其取扱を快諾す

五、寄送者諸姉の人名其他右に關する要用の件は本會雜誌を以て報告す

六、寄送の帽子は左の雛形により調製の事



調製代價は本フランチル綿フランチルの別により多少の相違はあれども凡廿錢以上卅五錢位なり

明治三十七年十一月

大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を開き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改良育兒及看病法等の如きはいと緊要の事にして皆な婦人のもつぱら擧るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相結て婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは誠に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を悉さゞるものゝ如くまことに惜しきことなり因りて毎月頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月五一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話をひに相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞のためすあらんとす玆に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手數料金[illegible]なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす終身會員は一時金拾五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但[illegible]納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を[illegible]殿下に[illegible]出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推擧に依り會長之を命ず但書記は[illegible]會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し[illegible]役員の命を受け諸記錄を掌る幹事の分課を設け出版、會計、庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件[illegible]會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす[illegible]任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし總會は三月に之を開く若し必要の事あるときは臨時總會を開くことあるべし又每年春秋二回[illegible]員相互に[illegible]會員講說談話[illegible]あるべし●第十七條　隨時學識經驗ある人々に衛生上の[illegible]講演を託し會員をして臨席せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘ひ諸般演說[illegible]を傍聽せしむるを得（但衣服は總て質素たるべきこと）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件[illegible]定のこと●第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算并に職務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支總て會計簿は每年三月幹事の檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者[illegible]後會員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし員にして支會に加入したる者の會費は[illegible]規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして[illegible]其著書物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を[illegible]價を會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送付[illegible]として別に送信料を添へらるべし（郵券送付一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込區[illegible]八幡町郵便[illegible]所）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を怠り督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穂子
仝　松平芳子
仝　三浦敎子
仝　石川貞子
仝　岩下ゆか子
仝　濱田捨子
仝　長谷川仲子

評議員　仁禮壽賀子
仝　西升子
仝　穂積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悅子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武輝技子
仝　丹波貞子
仝　高橋季子
仝　田村きよ子
仝　相馬陸子
仝　男爵夫人　南部限子
仝　中濱芳子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　岸澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

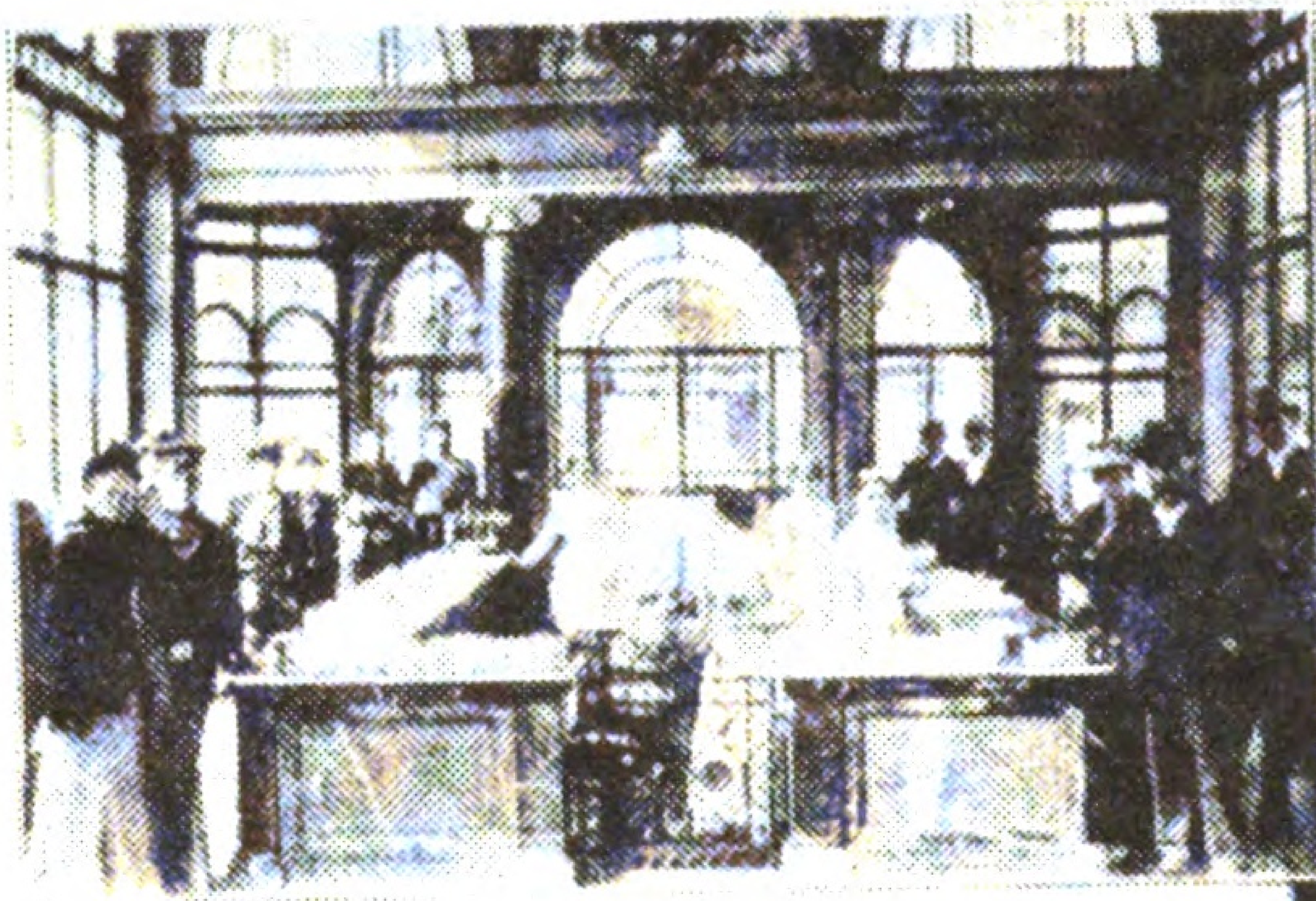
（●は本會及支會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學士　●伊東祐彥君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
ドクトル　內科[illegible]　●岩井禎造君
醫學士　●石原久君
醫學士　磐瀨雄一君
醫學士　石原喜久太郎君
貴族院議員　濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　秋原彌四郎君
醫學博士　●芳賀榮二郎君
●長谷川泰君
新潟　●長谷川一舒君
小兒科　小原頼之君
醫學士　●岡田榮吉君
醫學士　●林春雄君
醫學士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君
步兵中佐　●粟內文次郎君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君

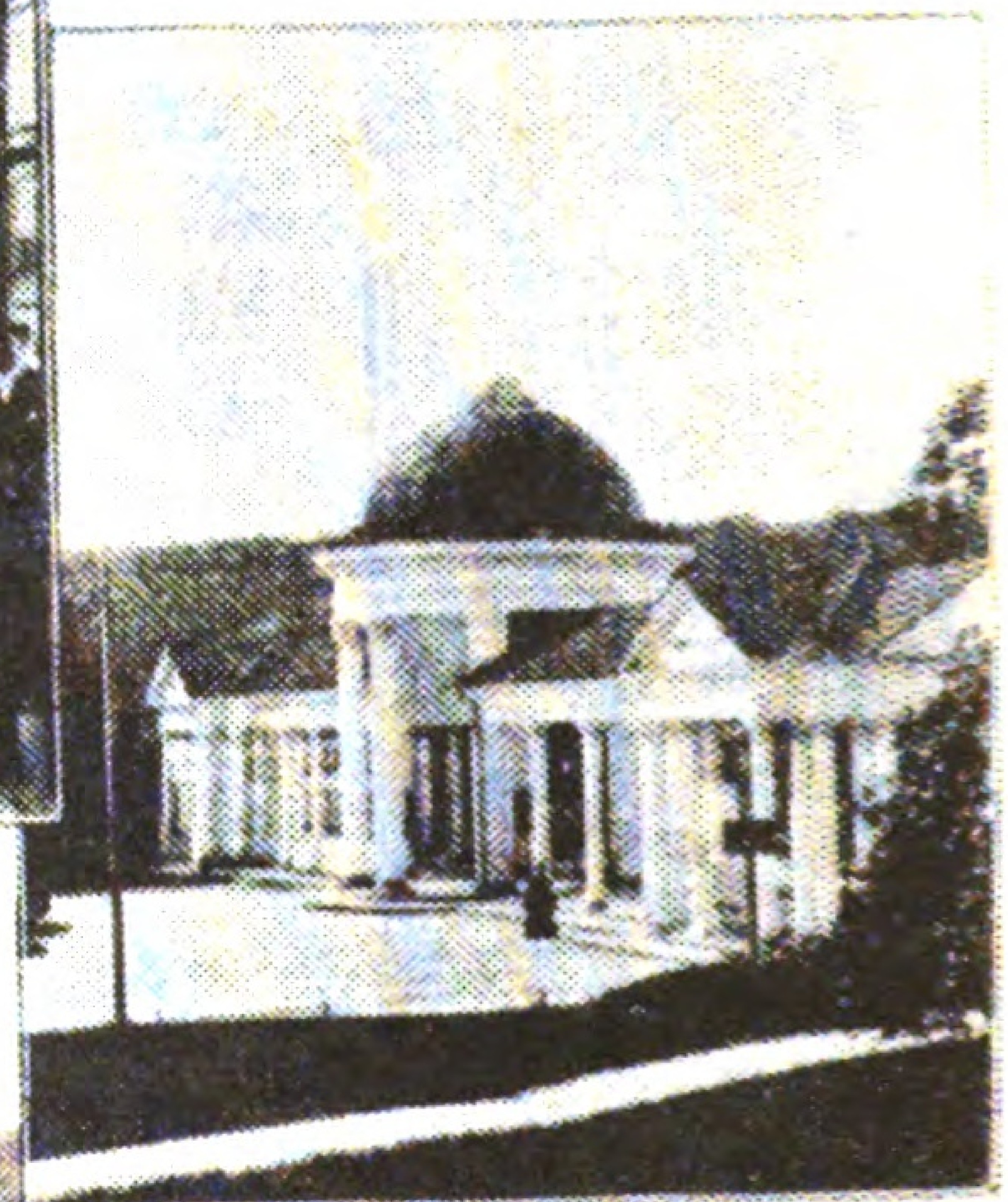
醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　大內秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　●加藤弘之君
ドクトル　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上雅試君
醫學士　●櫻田龜一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學士　唐澤光德君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寬君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　●高田耕安君
新潟醫院長　●高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　高橋貞碩君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●田村光顯君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　米山彥郎君
三等軍醫正　●星野候光君
醫學士　●宮本俊君
一等軍醫　●櫻井忠閔君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部甕男君
藥學博士　理學博士　●長井長義君
醫學博士　●中濱東一郎君

醫學士　栗本庸勝君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　村松純三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山田鐵三君
醫學士　●山田弘綸君
醫學士　●山根正次君
[illegible]山　山川春二君
醫學士　●丸茂文良君
衞生試驗所技手　●丸山長四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　小泉賀君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正敏君
臺灣民政局長　●後藤新平君
元帝國大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田勇吉君
醫學士　●寺川門作君
醫學士　●寺田織尾君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寬君
ドクトル　●新井市芳君
ドクトル　富士川游君
高崎醫會長　土谷金次君
産科婦人科　●水原衞君
ドクトル　●久保川誠麿君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　●淺田次君
醫學博士　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山義六君
高崎　秋田聰太郎君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　●櫻井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君
醫學博士　●榊順次郎君

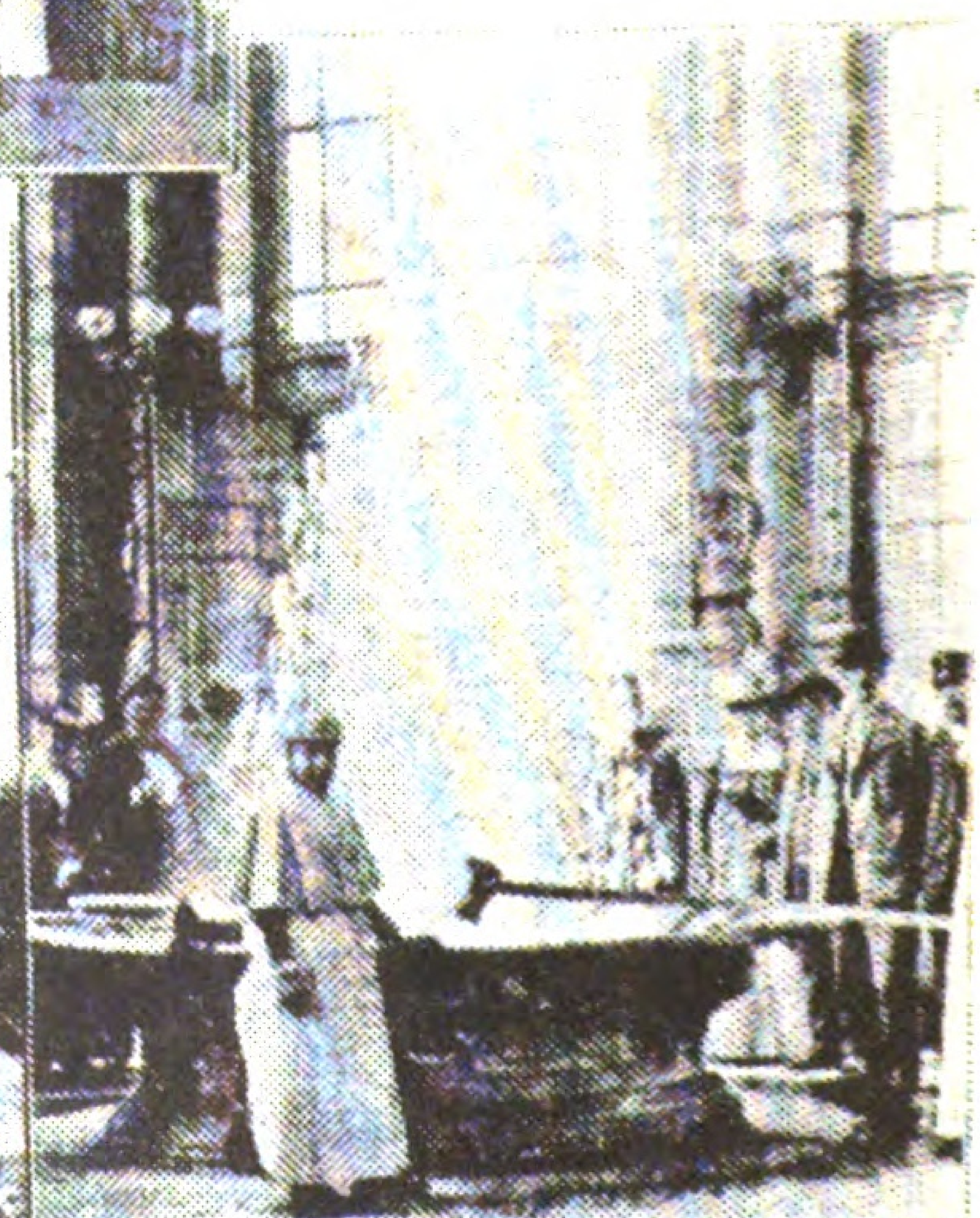
醫學士　●榊保三郎君
醫學士　櫻井恆次郎君
醫學博士　●桐淵鏡次君
醫學士　●北村精造君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學博士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學博士　●三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●日高昂君
ドクトル　●須田卓爾君
醫學士　●淸川德君
醫學士　●木村德衞君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　●波多野傳三君
醫學博士　●吳秀三君
ミス　●ヒコース
ミセツス　●コーツ

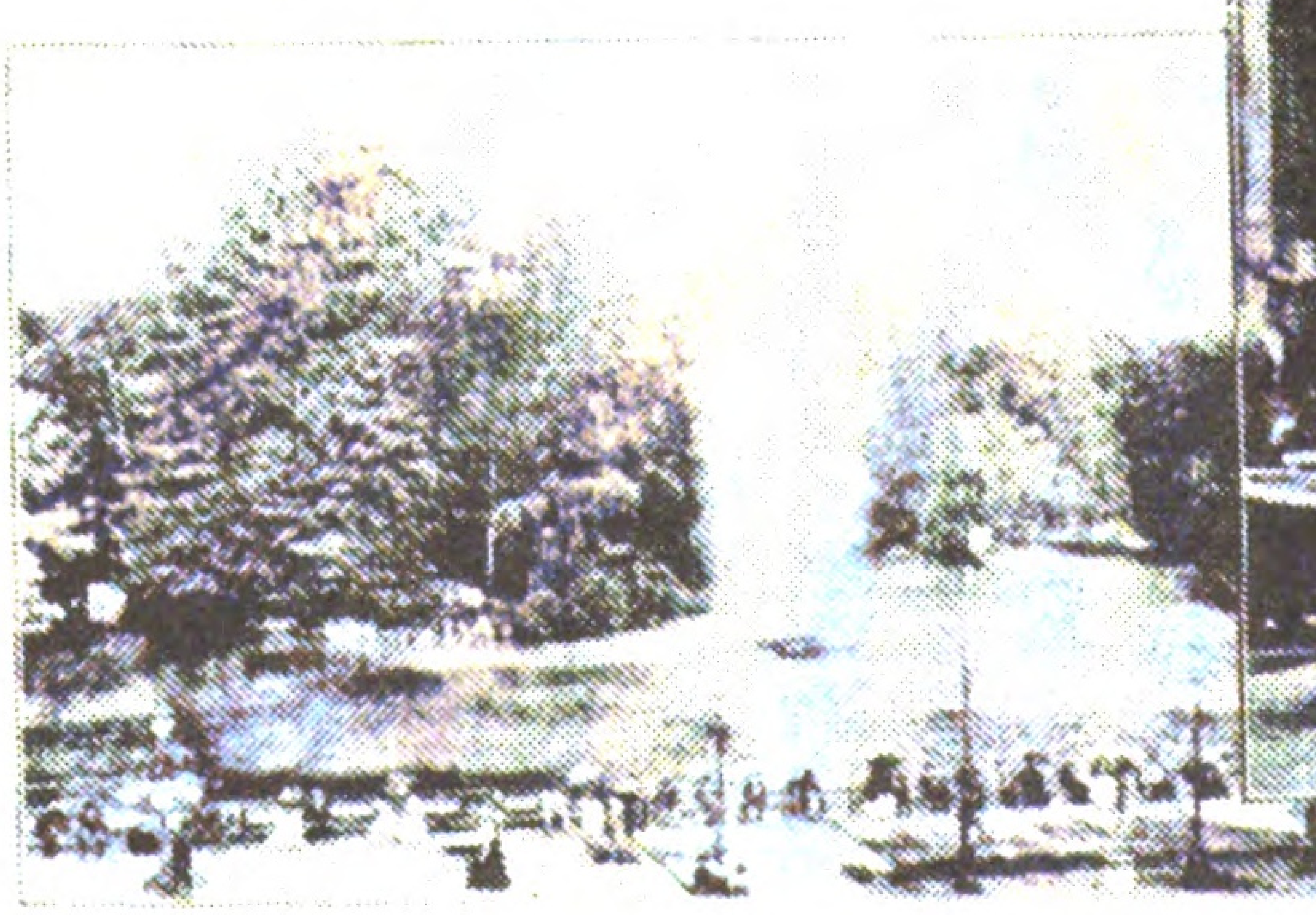


フェルヂナンド泉









名家演壇

浴療法

醫學士　岡田榮吉君述

三浦博士の奥樣の御勸に由つて何か講演を致すことになりましたが、殊に今日は　總裁宮妃殿下の御臨場もあり、私に取りまして非常に光榮と存じます。然し日頃婦人の衛生といふことに就て殊更に研究も致しませんので、幹事さんの御勸めに適ふ樣な咄しは出來ません、又面白い咄しも致し兼ねます。一體學術上の談話は多くは乾燥無味なものですが、今日の私の演題などは殊に面白からざるものゝ一と信じます。然し時候がそろ〳〵湯治、海水浴などの汐先きに向ひますので、或は斯んな題が良からうかと思ひ、成り丈け學術的の事を省略して申し上げることに致しました。種々の方々が御集りになつて居る本會のことでありますから、本題の適否難易が一樣に參りますまいと思はれるのは致し方が無い。又鹿を逐ふものは山を見ずの類で、自然失禮な事柄でも申上げましたら、何うぞ學問上止むを得ないと御勘辨を願ひます。

一體「浴療法」と申しますと單に湯に入るといふことの樣に御考への方も有るかも知れませんが、治療學の發達に伴れて、これも漸々に發達して參りまして、只今では體を水に漬けるといふばかりでなく、光線に晒されたり、瓦斯體に圍まれたり、固形體に觸れたりするのまで浴療法の中に數へ、溫度も色々であつて、必ずしも湯に限りません。近頃は又皮膚ばかりでなく、消化器、呼吸器等の粘膜に働く作用まで浴療學で論じます。要するに此の浴療學は水治法、氣候療法、溫度療法、藥物學だのといふ種々の學問に關聯した廣い學問でありますが、今日は其の主眼

である所の狹義的浴療法、卽ち「身體に外用する浴」のみに就て述べます。

風土習慣の關係に由るか、日本人は西洋人に比して沐浴に慣れて居ります。上流下流の差別なく、職業の如何に拘らず、日本人は善く湯にはいりますが、西洋人は一年に何度と數へる位しか溫浴を取らないのがあります。一生湯の味を知らない人も有るさうです。尤も每朝冷水溫水で體を拭ふことは致しますが沐浴の少ないのは事實であります。歐州でも南方では天然に湧く湯も多し、又必要上比較的多く湯に入る樣ですが、それとても日本に比べては如何でありましやうか。であるからして湯に入るといふことを大變臆劫な恐ろしいもの丶樣に信じて居る人がある。夫れ丈けに又一度でもはいらうものなら大變に効驗がある樣に思ふものがある。從て西洋の浴療法の書物を見ますと隨分可笑しい位御大層に書き立て丶あつて、一方には又成るべく立派な學問に仕上げやうといふ考へから、殆んど牽强附會の樣な說が附けてある。後頭浴といつて後頭部だけを漬けたり、肘浴といつて肘に水を掛けたり、或は又長さ二三間も有る淺い盥の樣なものに淺く水を湛へて其中を素足で步むといふ類がいくらもありますが、一寸考へると變に思ふ方があるかも知れない。それから又浴水の中に含まれて居る成分も喧しく論じてある。然し浴の効驗に就ては化學的成分よりも浴水の溫度の方が大關係を持つて居るのであるから、私は先づ第一に種々の溫度の常水浴を御咄して、それから順次他のものに及ぼさうと思ひます。

第一、液體を用ゐる浴

甲、等溫溫浴

抑々吾々は何が故に食物を取らなければならないか。運動するためでもあり、同種族を蕃殖するためでもあり、物を考へるためでもある。夫れでは靜かにして居て、何も考へなければ食事をしないでも濟みさうなものですが、さうは行かない。人間が生活するには人間に固有の體溫を保たなければなりませ

ん。赤道直下は例外として、吾人は低溫の空氣中に棲んで居るから、不斷溫を奪はれて冷却する。然るに人類の生存上腋下で測つて攝氏三十六度何分といふ體溫が最も適度であるから、この溫度を保つて行かなければならない。人間ばかりでなく鳥獸皆夫れ夫れ固有の適度體溫があります。而して此の一定の體溫を保つためには食物を攝取し、其中の吸收された成分が呼吸によつて得た酸素で燃燒されて、さうして出來た溫で溫めるのである。もつとも下等動物は冬季食物が無くなると、穴の中に潜んで飲まず食はず動かず、所謂最小生活を致しますが、人間は適當の方法で食を索め、體溫を保ちますから、決して冬眠をやらないで宜しいのです。

人間が饑餓に陷りますと漸々體熱が減じ、體溫が下降して終に死なければならない。即ち蒸汽機關が斷へず運轉するためには始終石炭を焚かなければならないと同じであるといふことは解りましたが、何うしてそれでは一定の體溫を保つか、裸體で寒風に晒されても、沸騰點に近い溫度の中に居ても、(時間が長くさへなければ)腋下三十六度何分といふ體溫が著しく變じないのは何ういふ理由であるか、是れは溫調節といふ妙機があるからです。即ち蒸汽機關でいへば壓力計があるからです。即ち高溫に逢ひますと皮下血管が擴張して、盛に溫を放ち、汗も出て其蒸發と共に溫を失ひます。反對に寒冷の場合には血管も皮膚も收縮し、汗も止まります。尙又腦の中に溫出納を監査する中樞といふものがあつて、寒冷の時には造溫を增し、溫熱には減じるといふ樣なことがある。其他溫を導き難い皮下脂肪層だの、衣服だのといふものも大關係を持つて居る。夏瘦せといつて夏季に脂肪が減じたり、寒さに向ふ秋季に食慾が進むといふこと、寒冷に際して不隨意的に筋肉に震顫を起して體內に溫を增生することなども、皆多少の理由があります。

其他此の寒冷が斷へず皮膚に働く結果、脊髓を刺戟して筋肉に緊張を與へます。解り易く謂へば筋肉は

安靜時にも多少の縮みと張りとがありまして、いざ運動といふ時にすぐ間に合ふ樣になつて居る。例へて見れば冬季蒸汽喞筒に少しづつ火を入れて置く樣なもので、そら火事といふ時速く役に立つのです。反對に溫熱に逢ふと緊張が減じます。要するに寒冷は吾人に取つては一の刺戟であつて、吾人は此の寒冷と戰はなければならない、寒冷なるために腦も脊髓も休むことが出來ない。故に身體と同じ溫度即ち三十四五度位の溫に逢つて居る時が一番刺戟が少ない。(因に申しますが人間の體溫は腋下でこそ三十六度以上ですが、軀幹四肢は大抵三十四度半位、臀部は三十二度、耳垂は二十九度に達しません。)即ち等膚溫浴は無刺戟、安靜的の浴法であつて、殊に溫泉て此の溫度を有するものは始終溫度が變らずに平等てありますから一層此の目的に適ひます。適應症は神經衰弱、歇斯帝里などで興奮し易い睡眠の深くないもの、半身不遂、脊髓炎等手足のひきつつて居るもの(拘攣)、神經痛、脊髓癆等疼痛を訴へるものに宜しいです。持久浴と申しまして皮膚病、精神病患者を數週間持續して此の浴に入れた儘にする療法があります。

乙、冷浴

廣い面積を持つて居て溫政上大關係のある皮膚が急に寒冷に逢ひますと、前述べた通り表在の血管が收縮して放溫を減じ、血液は體の內部に逐ひやられて心臟に反射的に働き、血壓が高まります。平つたく申せば血液を循環させる喞筒の働きが強くなります。それから又筋肉の緊張が高まり、不隨意的に攣縮が起る。一方には又造溫も增し、此の際今迄不十分に燃燒した物質が善く燃えまして、自覺的に爽快の感を起し、「エネルギイ」が增します。而して此の冷浴の刺戟は溫度の低いほど、働きの急な程、大きい。又冷浴の後には反應として造溫の增す結果體溫が少し昇るものです。

若し冷浴を度々反復しますと、寒冷に對する皮膚の調節機が十分鋭敏になり、冷浴で無い急劇の寒冷空

氣に逢ふ時、何んなに急に來ても調節を失ふことが無くなる。之を皮膚の馴練と申します。言を換へて云へば寒冒に罹り難くなる。

應用法は種々てすが十度內外といふ冷たい水なら一分か半分時間位漬かり、二十度內外なら永く堪へられ、「バサン」といつて廣い池の樣な水槽なら泳ぐにも宜しい。一寸御注意に申し上げますが、二十度の水は二十度の空氣中に居るのに較べると遙かに冷かてす。水の方が空氣よりも溫を奪ふことが甚しいからてす。夏になると水藥が冷える樣にといふので能く水藥瓶を水に漬けて置く人がありますが、水も汲み立てこそ少し空氣よりは冷たいが直くに空氣と同じ溫度になるから冷えはしません。然し指を入れて見れば冷たく感じます。或は又冷水に浸した布片で全身を冷しながら、同時に摩擦しますれば之に器械的刺戟が加はつて尙宜しい。殊に末梢から心臟の方へ向つて摩りますれば循環を促します。適應症は神經衰弱て遲鈍性のもの、腺病質、貧血、其他糖尿病、肥胖病の樣な新陳代謝の疾患です。血壓の關係からして心臟病には禁忌としてある。

冷浴も少しく永く持長しますと著しく體溫を下げるものです。殊に窒扶斯患者など溫調節の狂つて居る場合には解熱の効がありまして、甚しく熱が高く、精神症狀が盛んて、呼吸の淺表なものなどに水浴を行ふことがあります。初め三十度位から段々と水を加へて冷して十八度位にする。然し衰弱の甚しいもの腸出血のあるものには良くない。

以上は全身浴の咄してすが局處浴としても大効があることがある。其一例は胸部の冷濕布繃絡で、肺炎などに罹つて熱も高く呼吸の困難なものにこの法を行ひますと、不隨意に呼吸が深くなり、細かい氣管枝まて通氣ができる。小さい小供には殊に良い處置の一つてあります。呼吸の深くなるといふのは生理的の反射作用て、胴中へ急に水を掛けられた經驗のある方は御承知てありましやう。

背「ドッシュ」と申しまして喞筒の筒先きの樣なもの

て冷水を脊中へ掛ける法があります。冷却と壓力と二つ集つて効を奏する。

その他局處冷浴としては足に用ゐて鼻腔の血管が縮む、心臟部を冷して心悸亢進が良くなる、頭を冷して頭痛が輕くなるといふことがある。何れも反射的であらうと思はれる。「頭に氷囊を載せても毛髮、頭皮、腱膜、骨を通してその下の腦膜まで冷えるものでない、その間には溫かい血液が流れて居るではないか」といふ人があるが、あながち中まで冷やす爲めではないので、吾々の望む所は反射作用にあるのです。人間は土でこしらへた人形と少し關係が違ひます。實際用ゐて見て宜しいといふ經驗は沒却することが出來ません。

丙、溫熱浴

溫熱水に逢つて皮膚が軟かくなり、垢が取れ、脂も取れるといふのは吾々が日常行ふ處の淸洗浴で、別段述べずとも解かつた咄してすが、學術的に觀察しますと、三十六度位の低溫浴でも已に造溫が減じます。久しく熱浴を取りますと、體溫が上昇して蛋白質の分解が盛んとなり、頭部に充血して筋の緊張が減じ、浴後だるく感じます。冷浴の後とは反對てす。それだから高溫全身浴を久しく持續するのは老人など動脈の硬い腦出血の傾向があるもの、及び貧血家などには良くないとしてある。西洋人の中には度々溫浴すると風を引き易くなるといふ人がありますが、吾人の樣に慣れて居る溫帶の人種には如何でありましやうか。

神經、脉管の病で末梢の循環が惡いもの、氣管支、肺、腎臟病患者、神經痛患者、月經障碍等には一般に効がある。早產の小兒の體力保全にも用ゐます。其他坐浴即ち腰湯として用ゐますと腰部以下に充血を起すため、頭の方が輕くなり、腹痛があれば寬解し、生殖器の滲出物も減じます。脚湯の効も之れと大同小異です。

丁、礦泉浴

水が地層の間を流れる間に地心の熱で溫められゝば

溫泉となり、さも無ければ冷泉となる。流れる間に種々の成分を溶かして其中に含有することに由つて、浴療學上色々の種類を區別します。由來此の礦泉の成分といふことは大變重きを措かれて居りますけれども、實際は外用上皮膚に及ぼす刺戟の他著しい關係が無いもので、一番緊要な點は溫度如何といふことです。なぜなれば人間の皮膚は礦泉の成分を吸收する能力を持つて居らないからである。實は皮膚が種々雜多なものに觸れてもこの外來害物を吸收しない樣に自然の妙機で角質といふものを具へて居るわけで、此の角質が撒里矢爾酸とか石炭酸とかいふもので溶解されない間は幸に何んなものに觸れても之を吸收するといふことをしない。たまく刺戟の爲めに炎症を起し、毛囊に有害物が入り込んで發疹を起すことがあるのは、望まない處の疾病を新に儲けたので、俗間信じられた通り溫泉の効に由つて體內の毒物が外部に浮いて出て來たのでも何でも無い。從て今茲には一般に認められた比較的確かな事實に就てのみ少し御咄を致す位に止めます。一體言ふと礦泉其物の効能の他、礦泉場の氣象、生活法の變化等が非常に關係を持つて居るので、平常精神を過度に用ゐるものが頭を休め、家事上の心配があるものが家累に遠ざかり、劇しい運動から安靜の境遇に移り、運動の不足が適度の散步に變る、といふ樣なことが與つて大に力がある譯て、斯ういふ事柄を除いたら礦泉療法の効が半分以上削がれてしまひます。一口に礦泉といつても、固形成分が一萬分の六以下で常水と毫も擇ばないものがある。それでも常水浴に比べますと此の點に於て遙かに優つて居るのである。

鹹泉と言つて食鹽を主成分とするものは箱根の塔の澤、底倉、伊豆の修善寺、東北では鹽原の樣な礦泉て、鹽類が多少皮膚を刺戟して循環、新陳代謝を鼓舞するため、腺病質、僂麻質斯、新陳代謝疾患、脉管の疾患、滲出物を有する諸病、神經系統の疾病等に用ゐます。溫冷は前に述べた原則に基いて適當の

ものを擇ぶのです。

硫酸那篤僧謨や硫酸麻倔涅失謨の樣な下劑を含有するものは秘結、脂肪過多、痔核、肝臟疾患、逆上に悩むものなどに內用させるのが主な効能です。炭酸石灰等土類を主に有するものは僂麻質斯や皮膚病に効があるといふが著しいことはない。

有馬に在る樣な炭酸泉は炭酸瓦斯が皮膚を刺戟することが甚しいので、末梢の體溫が高まり、中樞が冷却し、心臟病者に効があるといふことは殆んど衆口一致てあります。脊髓癆などにも應用されます。二十五度乃至三十二度の低い溫度で十五分位も浴するのです。然し興奮するもの、出血に傾くもの、月經時、妊娠中は禁忌です。

鐵を含有するのは磯部礦泉などで、貧血患者に內用としての効は勿論ですが、其收斂性を利用して皮膚の諸病、婦人生殖器病などにも適用します。

硫黃泉は箱根の蘆の湯の樣に硫化水素のため腐卵臭を持つて居ります。僂麻質斯の他梅毒や金屬の中毒に用ゐますが詳かでない。然し硫黃以外に有効成分を持つて居ります。

日本でも西洋でも礦泉場は療養場といふよりも寧ろ遊山場の樣な觀がある。勿論余り非平民的にして、富豪ばかりの專有物にしても良くないが、さうかといつて病人の集會所となつても困りますから、上述の理由によつて一程度まで遊山場で差支へない。但し余り俗的になつたのは感心しません。日本は全國渾て礦泉場といつてよい位、其數千有余もありますから、交通機關、衛生上の諸設備が段々完備してまゐりましたら、種々の階級、種々の要求に對して滿足を與へる樣になるだらうと信じます。茲に私が實見した西洋の礦泉地の中の二三を御紹介致します。(墺太利亞の有名な カルルスバァド、マリエンバァド 匈牙利の マルガレェテンババアス、獨逸のウイスバァデン、 ハルツブルヒ)。序に カルルスバァド」案内記を一冊御覽に供しますが、この中には次に御咄しする色々な浴法の圖がありますから豫め御

覽を願ひます。

カルルスバアド の中の スプルウデル といふ名の噴泉は温度攝氏七十三度一八て、一分時間の湧出量十五石强てす。鹽類下劑を含有して居るので主に飲用に供しますが、宮殿の樣な浴堂が澤山有つて入浴も出來る。其他種々の浴法も備へ附けてあります。肥胖病等に効が有るといふ所から、澤山該患者が集まつて參りまして、小さな布巾を入れた「コップ」を紐て袈裟掛けに肩から吊しまして、朝食前午前六時頃から杖をつきながら思ひ〳〵の湧出所に來て湯を「コップ」に汲み「コロンナアデ」（柱廊の義）といふ廣い廊下（其數はいくらもあります）の中を飲みながら練り歩きます。盛裝した伶人の奏する音樂に連れて右へ右へと歩きますが、此の行列は凡そ九時頃まで續きまして、其間は廊内て喫煙することを禁じ、婦人は裾を曳かない樣に注意した掲示などがあり、咯痰なども特定の器にするなど能く行き屆いた注意があります。肥つた人の歩く樣が可笑しいのて、惡口に「ゲンゼマルシュ」と申します。これは鵞鳥行列とてもいふ意味て、日本ならさしづめ家鴨の文庫背負つたといふ類です。其他設備の完全な模樣などは書に就て御覽を願ひたい。

戊、藥浴

主に皮膚の疾患に用ゐますので、石鹼を入れたものだの、刺戟を遠ざけるために澱粉や麥芽を加へたり、搔痒の甚だしいものに糠浴、梅毒患者に昇汞浴、それから收斂の目的て槲の皮を入れ末梢の循環不良や頭部充血には芥子浴を脚浴として應用します。松葉浴といふのは松杉の葉の越幾斯を入れるので、私も試みましたが、盛にピリ〳〵しまして浴後大變に皮膚が發赤します。

一體は藥浴の部類に屬しませんが電氣浴といふのがある。これは低温の常水浴の水へ比較的强い電氣を通じまして患者をその中へ入れるので、神經系統の疾患などに用ゐます。

第二、瓦斯體を用ゐる浴

甲、蒸汽浴

所謂露西亞風呂は攝氏四十五度と五拾五度位と二通りの蒸汽を充滿した二室がありまして、一定時間づヽ第一第二の兩室に入つて後、三拾七度位の摩擦室に移りまして、それから「ドッシュ」室へ來て如露の樣のもので水を浴びるのです。

これは全身が蒸汽に觸れるのですが、箱の中へ同じ位の溫度の蒸汽を通じ、患者は首だけ外へ出して十五分乃至二十分其中に在る法もあります。蒸汽函と謂つて手輕るな好い浴法です。

蒸汽浴の作用は末梢血管が甚しく擴張して心臟の作用が速かになり、發汗し、體溫の上昇を來しますので、僂麻質斯、腎臟、肝臟の疾患、神經痛、脂肪過多症、氣道疾患、慢性皮膚疾患等に應用します。

熱のあるもの、高齡の老人には良くない。

其他一二の關節筋肉に局處蒸汽浴として用ゐる裝置が色々有ります。

乙、熱氣浴

一名羅馬愛蘭風呂と申しまして、熱い乾燥した空氣を用ゐるので、第一室は四十五度乃至五十度、第二室は五十五度乃至六十度、第三室は凉室といふ順序です。これは身體の蒸發が十分に出來て、體溫が余り上昇しませんから、前の蒸汽浴よりは高い溫に永く堪へられます。適應禁忌は略前の通りです。

私は此の甲乙合併式の發汗浴を二三回經驗しましたから其咄しを一寸致します。初め通常の陶器張浴槽で暫時攝氏二十八度の低溫浴を取りまして、それから直ぐ五十五度の熱氣浴室に入ります。むつとする樣な熱さでなか〳〵永く我慢が出來ません。木の「ベンチ」があつても手拭を敷かずには腰を掛けられない位熱い。端の方にちよろ〳〵流れ落ちる冷水で頭を冷したりなどして後、隣りの部屋に參ゐりますと此處も蒸汽浴だからなか〳〵熱い。どんよりとして部屋中眞ッ黑なため一層心持が良くない。堪りかねて外へ出ると明皎々とした「ドッシュ」室、身體が熱した揚句ですから十二度程の冷水が一しほ冷たく

感じます。一度は「ドウッシュ」の代りに二十二度の泳浴を試みましたが、何れにせよ身體を再び冷して後、乾燥した温かい大「タオル」で全身を包纏して、三助が根良く摩擦してくれる、其心地良さ。浴後別段甚だしくだるくもありません。

七八年前熱海で蒸風呂といふのをやつて見たことがありましたが、石室に五分間ばかり轉がつて居るので、誠に無造作なものでした。此の頃は如何でありますか存じません。

第三、光線を用ゐる浴

甲、日光浴

風を遮つた一堂に裸體の儘横臥して全身に日光を浴びるので、二三十分間位づゝ毎日反覆して行ひますと、皮膚に充血を起したり、色素を増したりして、其結果血液も殖ゑ、新陳代謝が盛になります。從て適應症は諸種の貧血、新陳代謝疾患、腺病質、恢復期に於ける衰弱等です。日本の大商家の店頭に坐わつてばかり居る番頭達が蒼白な皮膚粘膜を持つて居るのを見て、非醫者でさへも日光に當らないのは惡い、運動の足りないのは宜しくないと、いふことを申します。結核菌だの百斯篤菌だのと云ふものが日光に對して大變弱く、暗い濕つぽい處には割合に永く生存して居ることなどを考へましたら、日光浴といふことを行はないまでも、成るべく明るい坐敷に居住することが人生に缺くべからざるものであることが御解りになりましやう。

乙、電燈浴

內面を鏡で張り詰めた八角形の函の中へ通常の電氣燈を四十八個ほど點じまして、患者は首だけ函の外へ出して裸體のまゝ其中に腰を掛けて居るので、六七分間經ちますと著しい發汗を起します。即ち此の電燈浴は前の蒸氣浴、熱氣浴と同樣、發汗浴の一種でありまして、應用の場合も是れと同じですが、比較的低い溫度で心地良く目的を達しるのが其長處であります。

第四、半固形體を用ゐる浴

甲、黒土浴

原語で「モォルバァド」といふのですが、適當の譯語が無いので私は其外觀に由つて假りに黒土浴と致しました。是れは植物質に富んだ土層が空氣の無い適度の濕氣の有る所で分解して、其中に種々な種類の酸類を生じたものです。用ゐる前に風雨に曝して不溶解性のものを溶解性に變じ、乾かしてから能く搗き混ぜるので、眞黒な土で御座ります。これを一定量だけ浴槽に入れて、其中へ蒸汽を通じまして適當の稠度と溫度とに致します。私は之を「カルルスバァド」で試みましたが、何しろ比重の重い手もなく「どぶ」泥でありますから、體が浮いて浴槽の底に着かない樣な氣がするし、時々氣泡が鼻の先きへ上つて來たりして誠に心持ちが良くありませんが、後でざつと體を淸めてから、隣りの溫浴槽を使ひますのでさつぱりといたします。此の浴は比熱の關係によつて比較的高い溫度にしても堪へられ、身體が平等の溫で包まれるといふ長處があるばかりでなく、低い溫度でも其中の酸の働きで皮膚に著しい刺戟を與へます。慢性僂麻質斯、神經痛、滲出性疾患、生殖器疾患、腺病質などが其の主な適應症でありまして、禁忌は肺氣腫、肺結核、循環器病などです。

乙、澱泥浴

「シュランムバァド」といふのを譯したのです。海川湖等の沈澱泥でありまして、粘土、石灰、有機物、海綿の針、貝殼などを含有するので盛に皮膚を刺戟します。効用適應等は前者と同じですが、次の「ファンゴォ」の樣に局處的に用ゐることが多いです。

丙、「ファンゴォ」

以太利亞のバッタグリアから出る火山性泥土を乾かしたもので、水で軟膏の樣に練つたものを五十度以上に溫めて、一寸位の厚さに布片に攤布して關節などに卷くのであります。

第五、固形體を用ゐる浴

砂浴といふものが一つ有ります。乾いた砂を五十度近くに溫めまして木の箱に入れ、患者は首以下すつ

かり其中に塡まるのです。箱に車を附けて屋外に曳き出せる樣にしてあるので、頭部に充血を起すことが少ない。應用は呼吸を抑遏するので呼吸器疾患には良くありませんが、關節疾患、神經痛、腹水、浮腫などに効があります。一局處に砂浴として用ゐても宜しいです。

第六、海水浴

礦泉療法の効が沐浴以外に土地の狀况生活法の模樣などと大關係を持つて居る通り、海水浴に就きましても海水と海氣と光線と生活法と色々相待つて初めて効驗を顯はすのであります。殊に近來は海水よりも寧ろ海氣の方に重きを置く樣になりましたから、少し學術的といふ嫌ひがあるかも知れませんが、之を別々に觀察して見たいと思ひます。

（一）海水。海水が吾人に効のあるのは第一溫度、第二鹽類含量、第三海水の運動に關係します。第一の溫度は氣候晴曇潮流に由つて差がありますが、大抵冷浴としての効を發しるのです。十五度以上から入浴が出來るといふことになつて居りますけれども、それほど冷かでなくとも人體が急に十度乃至十五度位低い水に觸れますので、血液の分佈が變り、呼吸が深くなり、筋力が增し、少時間の後反應を起します。之を度々繰り返しますと前述べた通り皮膚の馴練となります。第二の鹽類の中では先づ食鹽が一番分量も多く、從て必要でありまして、其含量は一％位のもあり、四％位のもあり、海によつて違ひます。近邊に河口でもありますと食鹽の分量は少ない。凡そ量が多いほど皮膚に餘計刺戟を與へ、殊に一寸した事の樣で大變に緊要なのは、海水浴をした後身體を眞水で洗ひましても細かい鹽の結晶が多少皮膚の皺や毛の根などに附着しまして、是れが少しづゝ何時までも皮膚を刺戟することです。鹽湯を使つたり海水へ這入つたりして溫まると人の曰ふのは刺戟された皮膚が充血して居つて、それが末梢神經の終端に及ぼした結果として起る感じであります。昆布や荒目から製する彼の沃度は關節筋肉の疾患に内用外

用しますので、海水の効の中に此沃度を數へる人がありますが、是れは誤りで、海水中の沃度は決して人體に働くほどの分量及狀態で含まれて居ません。第三海水が運動すれば膚に觸れる水が斷へず變りますので體溫を奪ふことが一層甚しくなる譯で、是れと丁度反對なのは吾々が熱過ぎる湯に這入つた時です。熱い湯に這入りますと誰れもぢつとして居て、なりたけ身體を動かさない。斯うしますと皮膚に直接に觸接して居る、湯の薄い層が熱を皮膚に奪はれたまゝ比較的低い溫度を保つて移動せずに居るからです。又激浪が身體に衝突するのは一種按摩の樣な働きをしますので、之れに反抗したり泳いだり致しますと不知不識全身運動を行ひます。

(二)海氣。海氣の最長處は塵埃と細菌とを含有することが著しく少ないことです。都會の空氣には塵埃も細菌も驚くべき程多數にあるのに、海岸殊に海面上にはこれが甚だ少なく、大洋面上には全く無いといふことです。扨吾々が一日の間に吸ふ空氣の全量は八十石といふ大量でありますから、其中の塵埃の數の多寡は隨分影響を持つて居る譯で、それも呼吸器の健全なものなら纖毛上皮といふものゝ働きで呼吸器から外へ推し出す樣な仕掛けになつて居りますが、呼吸器が疾患に罹つて居る場合には是れが十分に出來ません。第二に緊要なのは溫度です。凡そ水は陸地の樣な固形體に比べますと日光に由つて溫められることが遲い代りに冷えることも遲く、而して日光の溫が割に深い處まで屆きます。それだからして日中同じ樣に太陽に照られても海岸の砂は焚ける樣に熱くて、海水は冷たいのです。處が夜になりますと陸地は急に冷却しますが海水はなか〳〵晝間の溫を失ひません。從つて晝間は陸上の空氣が熱した陸地で溫められて上騰しますので、海面上の空氣が其跡に來て、斷へずそよ〳〵といふ涼風即ち海風が吹きますが、夜に入ると反對に陸から吹きかへすのです。言を換へて云ふと海岸には海水といふ非常に大きな溫の貯藏庫が近所にありますので、其れが調

節をして異れる結果、日中と朝晩との温度の差が甚しくなく、即ち夜もさほど寒くなく、夏の晝間も微風が身體の温を奪ひ去つて涼しく感じるのです。即ち所謂大陸氣候と異なる點です。海水は通例夏は空氣より冷かで冬はそれよりも温かだといふのも同様の理に基くのです。次に潮流も大に海氣の温度と關係がありまして、歐羅巴が緯度の割合に温かなのはメキシコ灣から東北に向つて歐羅巴の西を流れる暖流の影響に由る通り、日本にも北亞米利加から南洋の邊に來て折れまがつて北へ行く黒潮といふものがあつて暖かいので、唯日光といふことばかりが關係するのでもありません。第三海氣の成分が陸上のとは異ふといふ議論がある。即ち食鹽を含んでるとか、阿巽が多いとか、いつて是等が偉効を奏する樣に信じる人もありますが、これはさうでない。食鹽は海水の激破する岸邊の他は有りません。阿巽も海水の蒸發に際して生じるものではあるが、分量が少ないので大した關係はない。それ故成分中陸上のと異ふ點はといへば只割合に水分に富むといふ位のものです。

(三)光線。これは前に日光浴に述べた通りの譯で、海岸に比較的強いだけそれ丈け影響も大きいです。夫でありますから海が吾人に及ぼす治療上の効は鹹水冷浴兼器械的作用と、塵埃も細菌も極て少ない、温度の差の劇しくない水分に富んだ空氣を呼吸することゝ、日光に當るのと、それから適度の運動やら、家累劇務に遠ざかるやら、色々聚まつて偉効を奏する譯でありまして、即ち皮膚が弱くて風を引き易いもの、腺病質の小供、結核性疾患の初期にあるもの、胃の下垂擴張などに罹つて居るもの、神經系統の病人では神經性消化不良や頭痛などあるもの、貧血家殊に御婦人では經血が少なくて白帶下などある人、それから肺炎肋膜炎などの恢復期患者等は海岸に送るのが至極宜しい。只海岸に滯在して居るだけて澤山です。不斷文筆に從事して運動が足りなかつたり、精神を勞することの甚しい職業の人、別段

これぞといふ病氣は無くつても身體が虚弱であつたり、神經質であつたりといふ人達は海岸滯在に兼ねて海水浴を行つて宜しい。さうすると精神身體の勢力が增し、食慾も進み、睡眠も深くなり、體重が殖えます。即ち榮養が良くなります。榮養といふことに就て一寸御斷りして置きたいのは肥えると言つてもぶく〳〵と脂肪で太るのでは有りません。新陳代謝が盛になりますと筋肉こそは太くなりますが脂肪は却つて減じるものです。脂肪の多すぎるのは吾々から見ては身體も精神も機能の鈍くなつた病的の人間です。何處の海岸へ行つても船頭や漁師が齒ばかり白くして眞つ黑に焚けて居ますが、余りぶく〳〵肥えて居ない。運動を盛に行つて居る御百姓さんも余り肥滿の人を見かけない。それでも、或はそれてこそ、身體は健全なのであります。

一口に海岸が良いと申しましても人々に特異の性質があつて、間々海岸へ行つて却つて睡眠が不十分になつたり、動悸がしたり、食氣が無くなつたり、筋痛、排便障碍などを起すといふことがありますから、これは實驗の上惡い樣だつたら然るべき醫者の判斷を仰いで極めなければなりません。神經の非常に衰弱して一寸したことにも刺戟される質のものに害があることがありますが、これも海水浴をやらないで海氣療法だけ行つて居ればさほど大害のないことが常です。どうも日本では海水浴の効を極端に解釋して、かなり重い病人まで海へ這入るのを見かけることが少なくない。何だか海岸へ行つて海へ這入らないのは富士山へ登つて御札を貰はない樣な氣がすると見えますが、其理由の一部は海水の効能を本當に咀嚼しないのに坐します。其他海水療法に適しないのは動脈硬化、心臟肥大、僂痲質斯等です。失神發作に罹つてる患者は海岸に送れないのは言ふまでもありません。

海水浴の方法注意と申して別段のことはありませんが、成るべく日當りの良い時で空腹時、食後即時、疲勞時は避けた方が宜しいです。然し強壯の人なら

何時這入つても大抵差支へない。海水に漬かつて居る時間、是れは一定し難い。強壯の人が身體の馴練のために泳ぐのは例外として、先づ「浴の持續は永きに過ぎんよりは短きに失する方佳なり」と心得て居れば間違ひがない。海水浴を行つた跡で身體が久しく温まらないとか、一時間位經つてもまだ脉が速いとかいふのは、海水浴に堪へないか、或は持續が長すぎた徴してあります。日本では海水から出た後燒けた砂の中へ體を埋める人がいくらもあるが、反應を促がすため良いことだらうと信じます。この砂浴は海水に入る前に一寸行つても宜しいです、冷浴としての効が一層大きいからです。海水浴後身體に着いてる砂を洗ひ落すのは勿論ですが、鹽氣は少し皮膚に殘る方が面白い。海水浴の度數は一日に一回て澤山です。

以上御咄し致しましたことから自然御解りになる通り、海水の應用は夏ばかりでない、冬も宜しい。但し冬は海へ這入れない代り海水温浴を用ゐるのが結構です。

茲に有名なオストエンデェ（白耳義）、ワルネミュンデェ（獨乙）海水浴場の圖を御覧に入れます。オストエンデェには粗末な一頭立ちの馬車が澤山有ります。車の齒が廣いもので、浴客はこの馬車で遠淺の海邊をずつと海の方へ參りまして、適當の深さの處て着物を脱ぎ捨て、水衣と着換へて這入るのです。自分の馬車を間違ひない樣に太い字の番號が付いてあります。ワルネミュンデェの方の岸邊に厨子の樣な恰好のものがありますのは、編んだもので、日光の直射を防ぎながら其中に腰を掛けて海氣を呼吸するためです。二ケ所とも海岸には別莊やら借間やら澤山にありまして、殊に「クゥルザァル」といふ公衆娛樂堂は立派なものです。其他和蘭のスケヴェニンヘン等まだ色々視察した處もありますが大同小異ですから圖を持參しません。

終りに臨んで現今の礦泉地及び海水浴場に就ての私の感慨の中主なものを三つ四つ述べますれば、第一

浴療學上必要な氣象學の研究と之に伴ふ所の實行が未だ行き屆きません。礦泉の分析表位ではさつぱり役に立ちません。是れは何うしても政府の力を藉りるか、浴療地が、相協同一致して醫學者と氣象學者とに依頼し、數年に亘る事業として完成させる必要があります。つひ此の頃の咄して、たしか新聞には見えない様ですが、某る大會社で蒸汽釜の破損のため數日間事業を中止したことがある。何うした譯かと段々調べて見たら全く使用した水の成分が惡かつたといふことで、大至急善後策を講じたもの丶、會社の損失は大したものであつたさうです。若しも最初に金を使つて然るべき専門の人に相談の上良好の水を使つたならば斯んなことも無かつたのにと後悔をしたさうです。

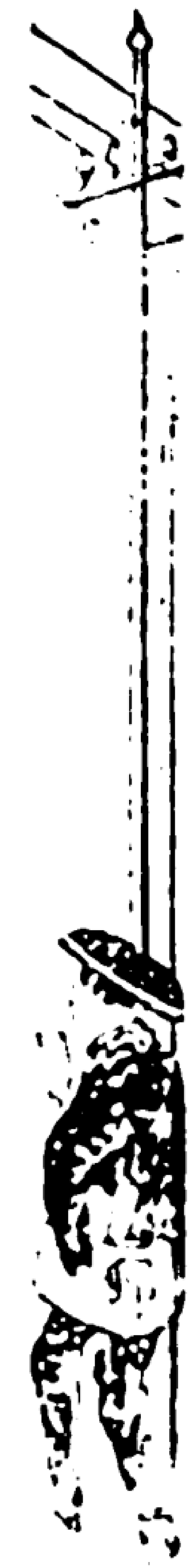
第二の缺點は浴醫といふものが無いことゝです。西洋には大抵「バデアルツト」を置いてあります。是れは只今の狀態では特に浴醫として各地に派遣するほど手億劫な不經濟なことをしないても、當該の土地の人々が最寄りの醫者に相當の保護報酬を與へて片手間に浴醫となつて貰つても澤山だらうと思ひます。何しろ何處には何の誰といふ浴醫があるといふことを公けにして、その人に浴療學上の智識を學得して貰つて置けば、浴客は自身に何ういふ浴法が良いかといふ相談も出來るし、急病の時にも間に合ふし、浴客の幸ひは鮮なくありません。只今のところ皆自分の常識に由つて良否を區別するより他致し方が無い樣な有樣です。

第三礦泉場は礦泉、海水浴場は海水、と斯う天賦の治療劑だけを便りにして、其他衛生上の設備を顧みないのは良くない。少しは着手した處もありますがとても十分とは行きません。それから交通機關、娛樂上の設備等の完成も勿論であります。戰勝後吾が帝國の膨脹に伴つて觀光のため日本に來る外國人が多くなるのは解り切つた咄して、是等の御客さんを相手に國利民福を增進する手段の一つは確かに此の天の賜を利用する事てあります。世界の大公園

は歐羅巴では瑞西の秀山麗水、東洋では日本の山紫水明といふことは一般に人の認めてる所でありますが、人工的の設備に至つては日本はとても瑞西の大仕掛けなのに叶ひません。少なくとも函根に齒車鐵道や網車鐵道を設け、熱海の海面に快走船を浮べる位の事はやらなければなりません。一口に言へば仕事を世界的にしたいといふのです。

第四に一考を煩したいのは病者と健康者とを一定度まで隔離することです。殊に吾人の尤も注意しなければならないのは結核性の疾患です。何にしろ「人間死亡例の七分の一に結核あり」といふ位夥しく擴がつたものでもあり、病初の容體が著しくないことが多いだけに、窒扶斯や百斯篤と違つて隔離の勵行が六かしい。然し十中三だけ實行すれば屹度三だけの効力はあるものですから、何とか工夫をしたいものです。近頃警察令で取り締りかけて來たのは實に結構です。何うしても昨日まで結核患者の居た旅館の一室に這入つて、如何はしい寢具、疑はしい食器を用ゐるのは氣味が惡い、と云つて又患者の側から論じますと海岸や山林へ送るのは至極良い治療法で、從て近年は大分結核の治ほるものが多くなつて參つたのですが、さて夫れも動けない位重症なら遠方へは送れず、送れる樣なものは先づ〳〵輕症で實際堅苦しい病院三昧を好まない。であるから窮屈でない養生所、即ち旅屋で醫者が詰めて居るといふ樣なものでもこしらへて、保養兼治療をしたら妙ではないか。さうすれば公衆に對して結構なのみならず、病人の經過も屹度良からうと思ふ。肩に擔ぐ荷物と違つて半分他人に移せば自分の負擔が半分になるといふ譯でないのだから、病人も德義上自分で注意して成るべく斯ういふ處へ集るだらうと思ふ。人權を侵害することが少なくつて隔離をしやうといふのは中々六かしい。何に致せ今の儘で置いたら、某地には肺結核患者ばかり、某地には癩病梅毒患者ばかり居るといふ評判になつて、健康者、非傳染性患者は行かなくなるだらうと思はれる、否實際さういふ傾

向がある。天の恩惠には健者も病者も同樣に浴さなければならないのである。



鼻病と家庭

醫學博士　岡田和一郎君講話
伽速記事務所員速記

私は本日鼻病と家庭と云ふ問題で皆さんの御淸聽を煩はすことに致します、家庭は極めて圓滿で一家團欒に和氣靄々の中に暮すと云ふことが人生一番幸福であるのです、若し家庭の内に於て何か違つたものがあつたならば其家庭は非常な不幸な家庭てある、それて無論此衛生會の成立つた御趣意も本日此席に御參集になつて吾々の講演を御聽になる皆さん方の御希望も要するに目出度い幸福なる家庭を後に作らうと云ふ御趣意に外ならぬと思ひます、それてありますからして私は自分の專門の學問が家庭にどれ程の影響があるか、又幸福の家庭を作るに此鼻と云ふものは何程の關係を有つて居るかと云ふ事を簡單に述べて皆さんの御淸聽を煩はすのであります。

さて此鼻と云ふものは單純なものてありますが、此鼻と云ふことに就てのいろ〳〵の文學上の趣味或は其他解剖上の關係などのことは、私の助手てあつた久保猪之助君が嘗て皆さんの御淸聽を煩はしたと思ひます、故に今日は斯の如き鼻と云ふことに就ての意味の事は申述べず、主に病氣の影響に就て述べたいと思ひます、併し此鼻は生理的どう云ふ風な關係を有つて居るか、人間に此鼻と云ふものが存在すればどう云ふ仕事を命ぜられて居るのであるかと云ふ譬を申して置かねばと病氣の事を申すのに差支へる、鼻の生理的作用、即ち本來持前の役目は無論いろ〳〵ありますが、先づ大別致しますると二通りてある、一は嗅覺を司る是は他の機關て決して代理の出來ない鼻に限つて出來るものてあります、それか

ち又もう一つは呼吸を掌る、即ち人間の生活の上に於て最も必要なる空氣を取り且つ出す、即ち呼吸を掌る役目を有つて居る、此方はチョッと單純に考へると鼻が無くとも出來る、即ち鼻の代用物に口と云ふものがあるから強ち鼻か無くとも鼻の効力が缺損しても口で出來るぢやないかと云ふ考を、單純に考へるならば起すことが出來るのであります、併し是が後に申上げる家庭の上に非常なる關係を有つて居るので、どうしても呼吸をするには鼻に限る、口で呼吸をしてはならぬと云ふことは吾々の學問上實驗上確かに定つて居ります、是も矢張り皮想的に表面から考へると口で呼吸が出來さうであるけれども、理屈上實驗上どうしても鼻でなければならぬのでありて即ち口腔は決して呼吸する道でありませぬ。併し此二つが生理的の關係であるので、何故そんならば鼻は嗅覺を掌ることが出來るか、又にほひを嗅ぐのは鼻でなければならぬかと云ふことは、御承知の通りににほひを嗅ぐのは是は五感の一てありまして、五感器と云ふものは皆それ／＼特別の神經が入用である、それで其神經が、即ち眼で物を視るには必ず網膜の内に視神經が――視る神經が分布して居る、さうして其神經の作用に因つて吾々の腦髓に見たと云ふことの事實を知らして初めて見たと云ふことの事實を感ずるのであります、即ち耳で聽くには路の内に一の聽神經と云ふものがあつて、さうして其神經が耳の鼓膜の方に來りて音響を感じて更に之を腦髓の方へ傳へるのであります、それと同じやうに嗅覺を掌るに於てもにほひを嗅ぎ得べき神經即ち嗅神經が鼻の中の一部分に分布して居りまして其處へにほひと云ふものか麝香であつても樟腦であつても皆空氣の中に飛んで居る極く小さな物體であるから、それが入つて來て其神經に附着いて一つのにほひを嗅ぐのである、であるから其神經の無い處へどんな多くの物が附着いてもにほひは決して感じないのである、それ故に神經の在る場所即ち鼻の中に限つてにほひを嗅ぐのであつて、乃ち鼻でな

ければならぬと云ふことの理由は其處にある、それから呼吸をするのはどうしても鼻でなければならぬと云ふことは何う云ふ譯であるかと云ふと、御承知の通りに呼吸を爲る目的は空氣を取るのにあるのであります、吾吾の身體の生存上極く必要な物は空氣である、食物もあるけれども食物は今日の問題外であります、空氣が無ければ寸時も吾々は生存することは出來ない、其空氣と云ふものはどんな空氣でも吾々の身體の中に取りさへすれば生存か出來るかと云ふと決してさうでありませぬ、空氣は身體に害の無いやうな有要な空氣を採つて初めて吾々が生存することが出來るのであります、乃で此吾々の鼻は呼吸をする道具として作られて居る爲に惡い空氣を善くして、即ち身體に適するやうに空氣を改め直して、さうして身體の中に入るやうな構造になつて居るのであります、少し卑近のやうな申分でありますが御分りになるやうに精しく申しますと、先づ鼻の前庭部と名けまして入口の處には微毛が澤山發生して居る、此微毛が發生して居るのは誠に無用の長物を彼處へ置いてあるやうでありますが決して左樣でない、即ち微毛の發生の爲に空氣が幾分か淸潔にされます、實に空氣の中には諸の塵埃が澤山飛んで居る、從つて其中には黴菌も澤山ある、皆さんは度々諸大家の講演などを御聽でありますから御承知でもありませうが、多くの病氣、特に傳染病の原因は多くは皆黴菌であります、其黴菌が空氣の中に飛散して居ります、それから黴菌の附着して居る塵埃も飛散して居ります其黴菌や、黴菌を附着した塵埃を有する空氣を身體の中に澤山吸込んでも宜いと云ふ吾々の身體ぢやないので、吾々の身體は非常な弱點の多いものであるから、愈々無害である淸潔であると云ふ極く淸鮮なる空氣を取りさへすれば何時までも健康であるけれども、此淸鮮の空氣を撰ばなかつた時には種々の傳染病に罹り、或は塵埃を吸込んだために病氣に罹る、故に微毛の發生は取りも直さず空氣濾過器を備へ付けたのでありて即ち世の中の不良の空

氣が先づ第一番に微毛の發生して居る所を通過する爲に先づ一通り粗漉に漉されて、さうして大きな塵埃などを其鼻の口元に置いて然る後ち肺の中に進行すると云ふ構造になつて居るのである、それから又其他吾々の鼻の中は粘液膜があつて、さうして粘液膜には粘液腺と云ふものがあつて始終多少の粘液を分泌して居つて常に多少濕氣のあるものである、是は必要上濕はしてあるので、それはどう云ふ譯かと云ふと、即ち空氣の中に於ける所の塵埃或は黴菌が其道を通過する時に其濕つて居る壁に突當つて其處へ皆附着されて、さうして咽喉を通つて肺に入るまでには奇麗に無くなる樣になりて居るのであります、塵埃などを先づ鼻先にて粗漉にした空氣が倘ほ一層漉されて奇麗になつて入るやうな構造になつて居るのである、即ち此濕潤の程度それから微毛の發生の部分等は、正に不潔の空氣を奇麗にすると云ふ職分を掌らしめる爲に斯くなつて居るのであります、それから又もう一つは吾々の吸込む所の空氣は一定の温度を有つて居らなければならぬ、即ち今日の如く極く冷たくて而して空氣が乾いて居ると云ふやうな時に空氣を直接に肺の中に吸引したならば多くは風を引く、或は風邪ばかりではない肺炎も發るだらう種々な病氣が發るでしよう、それは極く冷たい空氣を直に吸引するが爲に發するのでありまして、それ故に吸引する空氣は必ず一定の温度を有つて居らなければならぬと云ふ事は定りきつた理屈である、所でそんなら吾々が平生呼吸をして居る空氣はどれ程の温度で吸收するかと云ふと、定つて空氣は鼻を通過する時は如何に冷たい空氣でも一定度まで即ち我々の血温まで温められ得る樣の裝置になつて居ります、御承知の通り我々の呼吸道は此鼻の尖端から喉頭を經て肺に到る迄其距離が甚だ長い、距離が長いばかりでなく鼻の內は皆さんも御承知あらせられませうが吾々專門家は毎日診て知つて居ります、竹筒を二つ列べたやうな單純なものではない非常に複雜な構造である、鼻の內には凸凹屈曲が澤山

あつて出たり引込んだりして居ります、それが則ち空氣を溫めるに適當した構造で、其距離の長い複雜なる構造を有つて居ります爲に、其複雜なる處を通過して行く間に好い工合に空氣が溫められる、さうして溫つて健康な空氣となつて吾々の身體に這入つて行く、其職分が鼻にあるにも拘らず若も是が役に立たず口でばかり空氣を吸つて行くと寒冷の空氣は寒冷の儘で入つて行く、それ故口で呼吸をする人は喉頭加答兒を病つたり氣管支加答兒を病つたりするのである、それからもう一つの問題は吾々の呼吸する空氣は一定の濕潤を有つて居ると云ふことが必要である、先程も申しましたが乾燥した空氣は非常に害がある、一定の濕潤を有つて居る空氣を吸つて居れば結構であるけれども極く乾いたものであると往往病氣になる、皆さんも多少御經驗があるでせう、風を引いて鼻が詰つて口で呼吸をして居ると直に唇が乾いたり舌も乾いて來る、咽喉も乾いて咳が出るやうになりて來る、てあるから濕潤せるしめッぽい空氣を吸ふて居れば斯の如き事はないから極めて愉快なる境遇に在ることが出來るのであります、其空氣をしめッぽくすると云ふことは何う云ふ風にしてそれが出來るかと云ふと矢張り今まで申した所で理解が出來ます、即ち鼻の中には粘液が澤山あつて是等の空氣をしめッぽくするからであります、粘液で濕潤せる處を乾いた空氣が通過して丁度適當なる溫度を得ると同時に適當なる濕氣を得るのであります、若し空氣が鼻を通過せずして直きに口から吸引されたならば乾燥した儘で這入りますから、それが爲に唯今申したやうな乾燥するやうな病氣が發つて來るのであります、さう云ふ次第であるからして矢張り口から空氣を取ることは出來るけれども、それは唯一時的代用でありて眞の生理的の感應を充分に代用することは決して出來ない、殊に吾々專門家の眼から見たならば毫も正當なる代用をするものでない、鼻でなければ決して眞正の呼吸を營むことは出來ないと言ふて然るべき事であると思ひます、然ら

ば此二つの問題があるからして若も鼻に病氣が起つたならば多くは此の生理的の作用を營むことが出來なくなる、そこで病氣と云ふものは何であるかと言ふと、凡て生理的の作用を營むことが出來ないものを之を病氣と言ひます、病氣と云ふ定義は何れ其內に其事に就て皆さんの御清聽を煩はす機會があるかも知れませぬが、兎に角簡單に言ひますれば身體の總ての機關の何れかゞ生理的の作用を充分にすることが出來ないのが則ち病氣である、それで吾々の專門として居る所の鼻の病氣と云ふものは唯今申した二つの作用をすることが出來ない、鼻の中が腫れたとか或は腫物が出來たとか種々の病氣が出ます、其病氣を御目にかける爲に繪を持つて來て居りますから後で御覽に入れる積りであります、兎に角病氣の原因も種類も共に千差万別澤山ありますが、孰れの病氣に於ても先づ第一に來るのか鼻が詰つて呼吸を鼻で爲ることが出來ぬやうになつて來る、それから嗅覺が惡くなりて來ると云ふのである、此二つの感應を失つた場合は、其失つた所の人々は如何なる影響を此家庭に及ぼすか、家庭とどう云ふ關係を有つて居るかと云ふ事を考へて見たならば是は實に深き關係を有つて居るので、即ち此二つの感應を失つた人が一家の家庭の中にあつたとしたならば、其家庭は非常なる不幸な結果に陷ると云ふことを認めて居るのであります、それで今日は病氣と云ふことを言はずに其家庭との關係を說くのが私の本旨でありますから、是から其事に就て論及したいと思ひます。

さて人間の身體には諸種の機關がありまするが、此鼻の粘液膜ほど過敏なる腦髓と密接なる關係を有つて居る處は多くはありません、それで此鼻の粘液膜の中には一定の病氣が發る、さうして唯今申した二つの必要な感應が無くなつた場合には、それは腦髓にどれ程の關係を有つて居るか、實に其關係は大きいものであります、皆さん多少御實驗があらせられませうが、風を引いたならば——風を引いて鼻が詰ると云ふ時には殆ど何の場合でも頭が重くつて、さ

うして頭痛がして何を爲るのも嫌だ、平生大變勉强家であつて書物なども能く讀む、仕事をしても人に劣らず一人前にやつて居つた人が、非常に頭痛がする爲に何事も打捨つて了つて、さうして仕事が嫌になつて了ふ、食事をしても食物に味が無い、それから床に入つて寢て了はうと思つても眠られない、實に不愉快な感じに陷つて了ふ、僅の風邪で、鼻加答兒の爲に即ち鼻が詰つたと云ふだけであるけれども、如斯腦髓に非常なる影響を來して唯今申したやうな苦痛を自ら感じて來るのである、是はもう誰でも——皆さんが御實驗になつて居ることとである、それと同じやうに若も長い間風邪と同じやうに鼻が詰つて居つたならば、必ず其鼻が詰つたと云ふ事の腦髓に影響をすることが持續的になつて來る、風を引いて鼻が詰つて來た場合なれば發汗劑でも飮んで其内に治つて來れば恰度夜が明けたやうになつて來るけれども、長き間鼻が閉塞して口で呼吸をしなければならぬと云ふやうな場合になつて來ると、腦髓に來る影響が持續的になつて來て長い間種々の影響を來すのである、此影響は老幼男女の別なくどの人にでも同じやうに來るのであります、故に此鼻の病氣を多く來すべき年齡の人は矢張り最も多く鼻の病氣の爲に腦髓の作用に向つて影響を受くるのであります、即ち幼年の人から段々數へて行きますと小學兒童や、學生即ち皆さんのやうな女學生でも、又た男子の學生でも、兎に角修學年齡の人が鼻が詰つて居て、鼻に一つの病氣を持つて居る場合には其人の修學すると云ふこととの上にどれ程の影響を受けるか、非常に大した影響を受けるものであります、即ち鼻の詰つて居る人は、皆さんの内にも詰つていらつしッても私の申す通りではないかも知れませぬが、多く鼻の詰つて居る修學者は放心する傾きがあります、即ち朝學校へ行つて、さうして敎場へ入つて敎師の言ふ事を筆記したり聞たりするときに初めの内自分の鼻の極く好い時には注意深く聞いたり書いたりして居りますけれ共、少く字を書いて居る中に逆

上せて來て先生の言ふ事が何を言ふか分らない、それから教授の時間が了つてから後に今日の講義は何であつたかと云ふことを考へて見ると何も覺がない、折角一心になつて聽かうと思つて聽いて居た事も零になつて仕舞ふ、さう云ふ風に氣か散つて仕舞ふ、それから家庭にあつてさうして自分が書齋にても入つて本を讀まうと思ふ時分には、今日は一つ何々を讀まうと思つてさうして讀みはじめる、すると二行か三行讀むと直ぐに本をふせて止めて了ふ、又二十册も三十册も讀んでもつひに初から終まで見ることはない、一向要領を得ずに了ふ、さうして一として深く腦髓に入れることが出來ない、さう云ふ風になるのは多くは鼻の病氣のためてある、それから又非常に記憶力が減退する、他人に聞かれても或は自分が勉强して習つた事は一時はチヨツと覺えるけれどもモウ一日二日經つと全然忘れて仕舞ふ、甚だしいのは自分が物を置いてさうして何處に物を置いたと云ふことをスツカリ忘れて仕舞つて、書物などを棚に置いて自分は今日是非必要だからと云ふて場所を定めて置いて其翌日調べやうと思つてもそれを何處へやつたか覺えないやうになる、さう云ふ風に非常に記憶力が減退して自分で自分を不思議に思ふほど記憶力が減退する、それも鼻の病氣の人に多い、それから又人に依ると或事實に於てのみ記憶力がなくなる、例へば數字、他の事は能く覺えるけれども數字に關係した事はどうも忘れる、或は人名に關係してのみ忘れるとか、唯今申したやうに物の置き場所に關係してのみ忘れると云ふやうな事もある、それて併しさう云ふ風な工合に記憶力が惡くなつたり、或は放心したりすると云ふやうな事はそれは鼻病ばかりてはありませぬ、腦髓の發達の惡い人、或は神經の衰弱に陥つたり種々の病氣の爲に來るけれども、鼻に關係して居るさう云ふ場合は決して常識がない譯ではなく常識はチヤンとあるのである、殊に校外に於て——家の外で仕事をする上に於ては或は他人に長じて居る非常に發達が良い、即ちさう云

ふ風な子供を有つて居られる兩親は、家の小供は學校に行つても何年學校に通つても物を覺えない、試驗をしては何時でも劣等だ落第する、あれは常識が無いと云ふて嘆いて非常に苦心するが、併し考へると馬鹿でない、運動會にても出して見ると總て體操の方は能く覺える競爭すれば競爭には他人に勝つ、それで先づ身體も健康だし他人と戸外を散歩しつゝ談話をする所なども能くやつて居る、唯單り學校に居て仕事を爲る上に於て缺點があるので馬鹿ではないがどうも仕方がないとの感じを起す、是はどう云ふ譯であるかと言ふと鼻の惡い人、殊に鼻加答兒などに依て來た者なれば戸外の冷たい空氣を吸引すれば鬱血が常體にかへるから鼻が能く通る、さうして今まで記憶力の惡かつた者が好くなつた恰度健全なる常態の有樣になる、獨り家庭にあつて讀書室へ入つて書物でも讀むとか字を書くとか、或は學校へ行つて机に向つて腰を掛けて居るとかすると始めて其時に鬱血して唯今申したやうに記憶力が無くなつたり放心するやうになる、だから家の內外に因つて關係が違つて來る、戸外でやる時分は良く出來てさうして家の內へ入つて惡くなると云ふのが鼻の中から來る精神の異狀であります、デあるからして就學兒童などで隨分不幸な人があるので、歐羅巴では痴呆學校と云ふて馬鹿の者ばかり集める學校がある日本でもさう云ふ學校が必要である、日本でも慈善の人が王子あたりへさう云ふ學校を拵へて居る、初め吾吾の專門とする鼻の方の學問の進まぬ時分に於ては學校へ何年通つても何年通つても落第する、幾ら金錢を掛けても敎育が出來ぬと云ふやうな者は鈍愚な子供であると言ふて直に馬鹿者を敎育する學校へ入れたけれどもそれは非常に迷惑だ、唯鼻が詰ると云ふだけであるから鼻さへ詰らないやうにして置けば充分に就學することが出來るのである、現今はさう云ふ事は無くなつて幸福の境遇になつて來たのでありますが先づ是は修學者に對する關係であります、修學者でなくても大人でも矢張り同じ關係がある、

即ち此鼻の閉塞を始めると非常に腦髓に交感して腦髓に影響して、或人は非常に鬱憂の狀況になつて氣が沈んで仕舞ふ、平生非常に活潑で人に面會して話をするにも巧であつて、さうして交際場裡に立つて充分に立廻つて居つた人が、急に引込思案になつて他人に面を會はせるのも嫌になる、成るたけ引込んで居ると云ふやうな工合に大に沈鬱の狀態に陷ることがある、それから又時に依ると興奮狀態で騷ぐやうになる人もある、平生は何でもないが鼻が詰つて來ると非常に短氣になつてさうして人を打つたり亂暴な事をするやうになる、急に一の發作狀の症狀になつて來て精神の狀況が全く變つて來ることがあるそれで、私共が諸所へ行つて能く申しますが、是は一定した事ではありませぬけれども隨分世の中には酒癖がある、平生柔和い人が酒を飲むと急に癇癖が強くなつて來て他人を打つたりくだをまいて見たりするやうな人がある、それは一つには酒の中毒であるか知らぬが、是は酒を飲むと鼻が詰つて精神の狀況が變つて來て大變に癇癖が高まつて暴行を爲すやうなことになつて來るのではないかと考へて始終研究して居るのである、兎に角非常に神經の狀態が變つて來て暴行を加へる他人を打つと云ふやうな事が折々ある、若し一家内に老幼男女を問はずさう云ふ所の狀況に陷つて居る者があつたならば、一家の團欒と云ふ上に就てどの位の影響を及ぼすか、和氣靄々たる希望を滿すことは出來ぬのであります、非常に不愉快な家庭にならなければならぬのであります。

以上申した事は精神上に關係した事でありますが、此他また鼻の爲にいろ／＼影響して來てまるで鼻の病氣でないやうな病氣を起して醫者を招んで來て非常に苦心をする事がある、例へば御承知の通り喘息、喉が詰つて肩で呼吸をしてさうして苦しむ、若し一家内に喘息の患者があつたならば一家の人は非常に不幸な家庭に陷らなければならぬかであります、そこで此喘息は多くは鼻の病氣に由來します鼻が詰つ

たと云ふやうな人は喘息などの病氣に罹る、喘息は悉くと言ふのではありませぬが、百の中ならば八九十までは鼻の病氣に來るものです又た時に依ると癲癇も發つて來る痙攣して倒れて仕舞ふ、極く輕いのであれば御飯を食べる間に茶碗を落して仕舞ふやうな癲樣發作の來ることもある、鼻が詰つたと云ふ時分にああ云ふ事が度々ある、其他神經性の心悸亢進に動悸がして來るからソレッと言ふて醫師に馳付て診て貰ふと心臟に大した異狀はない、併がら動氣がして仕方がないと云ふやうな病氣も多くは鼻から來る、其他まだ種々神經性の消化不良症と名けて食事の進まぬことがある、始終鼻が詰つて居る爲め食慾が少く又た食つても消化しない、始終何か胃に入つて非常に押されて心持が惡いと云ふやうな工合にして遂に夜に入つても腹が押されるやうで眠ることが出來ないと云ふやうになつて來ることもある、即ち皆此等の病氣は鼻の知覺が過敏てあるから其神經から交感して腦髓に及んで來て、腦髓から肺だとか胃だとか心臟だとかに關聯して來る、さう云ふ風に鼻の病氣から身體の各部の病氣がやつて來るから、さうすると一家內が非常に騷ぐのであります、斯く申し來りましたならば鼻の疾患は前にも申す通り生理的作用即ち鼻で作用くことが出來ないてそれが爲に口から空氣を取らなければならぬ爲に其當人が非常な不快を感じいろ／＼な餘病が發つて來たり鼻の感覺の無くなつたが爲め實に人生の快樂中の一部を奪はれたして、それのみて已に人世の不幸であるのに神經に交感して來るが爲に腦髓に變化を起して、或は敎育も充分に出來ず、亂暴をする人のある爲に家輪もめが出來ると云ふやうに種々の影響を起して來るのであります、一家內の者の鼻が健全てある、即ち空氣を取る道が充分に健全てあつたならば少なくもそれが爲に一家の上に不愉快を來すと云ふことと又一部は正に免れるに至るのであります、そこで愉快なる一家の家庭を作つて唯今申したやうな子供を敎育する上に於ては他人に負けず充分の成蹟を以て敎

育を授け、それから一家内の者は何れも健全なる精神を有つて交際場裡に立つて充分に社交の上に鞅掌して行くやうな家庭を作ると云ふやうな事は、唯今申したやうに充分に身體各部の健康を無論計らなければならぬが、それには此鼻の健康を圖つて行くことにしたならば幾らか其目的を達することが出來るであらうと深く信ずるのである、然らば此衛生會の御趣意に依て唯今言ふたやうな一家の安全を圖る、家庭の幸福を得んとするに如何したら鼻の病氣に罹らぬやうになるか、どうして此不幸を防ぐことが出來るかと云ふのが是が大切な問題であらうと思ふ、故に此問題を解決するにはどう云ふ事を爲すつたら宜いかと云ふと、無論以上申したやうな鼻の病氣を來す原因は澤山ありますが、一には天然のものがありますから天性のものは仕方がない、けれどもさう云ふのは子供の内に早く醫師に賴んで癒して貰ふ、天性のものは鼻に一定の病氣があつて其爲に精神に變化を來し神經系統に變化を來すのであるから、さう云ふものは左樣せぬ内に早く癒して仕舞ふやうにすれば教育も充分に出來神經も冒されず了ふ、是はどうも幾ら衛生を重んじても防ぐことは出來ない、又た傳染性のものは現今の吾々御互の時代には仕方がないが、此衛生會の御趣意に依て充分に身體を健康にして戴いたならば、今日の時代の人が健康になつて居つたならば遺傳染すると云ふことは減少して來る、遂には無くなつて仕舞ふ、後の世には悉るであらうと思ふのであります、天性斯の如き病氣に罹る者などは大に減ずると私は認める、そこで今日御話する此病氣の原因は何であるかと言ふと最も多くは寒冒性であります、即ち寒冒を引くことてあります、風邪と云ふことは今日の言葉て言ふと即ち鼻加答兒てあります、精しく申しましたならば鼻が腫れて、さうして鼻汁が増へて鼻が詰ると云ふやうな事てある、其寒冒、之を豫防すると云ふ事は鼻の病氣を減ずる唯一の方法てある、それから此寒冒を引くことを防ぐにはどう云ふ風にするかと言ふと是はな

か〳〵難しい、難しいが私は嘗て耳の病氣の豫防と云ふ事を申したことがありますが、其時に寒冒を防ぐと云ふ事を御話致しましたが、其事を一言此處で繰返してさうして今日の私の演說の局を結ばうと思ひます。

寒冒を引かぬやうにすると云ふことは中々藥劑を服んだりチョッとした法方を以ては豫防することは出來ない、一番良いのは即ち自分の身體を鍛えに鍛へさうして寒さに冒されぬやうにするのが一番宜い、鍛えると云ふのはどうするかと云ふと、世の中の此氣候の變化と云ふことは自然であるから、どうしても無ければならぬ變化である、無ければならぬ變化であるから之れに應じ得る樣に覺悟するのが必要である、餘り暖かい處に引込んで居ると大變心持は宜いけれども、寒い風に當つたら必ずそれに冒される、そんな事では迚も世の中に健康に生存することは出來ないのである、氣候と云ふものは始終變化する、それから又空氣の寒冷溫度と云ふことも始終變化するものである、其變化に應じて行くには自分の身體の修養が暖い時にも寒い時にも充分堪えるやうに出來て居らなければならぬ、さう云ふ風に鍛えると云ふのであります、即ち日本人は吾々の家屋の構造だとか或は衣服なども多少關係があるでせう、總ての生活法が戶外の、空氣の變化に堪えるやうな生活を常にして居る、即ち此度の戰爭などで日本の兵士達は彼の滿洲に於きまして零以下十八度或は二十度と云ふやうな、今日東京などで考へられぬやうな處に行つて居る、今日皆さんは寒いと言つていらつしやるけれども、此寒さを以て滿洲の現今の寒さに比較することは出來ない、私は二十七八年の戰爭に滿洲に參りましたが手などは動きませぬ、口髯などは凍つてボツ〳〵折れると云ふやうな寒さで、其なかに居ても毛布を澤山給されてさうして包んで其中に安然として寢食をするならば宜いが、併し兵士の生活はさうでない、時に依ると露營もする雪の中に毛布々ゝ一枚にて寢る、さう云ふやうな寒冷のなかに

居つても日本の兵士達は寒冒を引かないのでありま
す、私も其時に患者を多く見ましたが寒冒を引い
て診察を受けるなど丶云ふ者は一人も無い、實に能
く寒冷に堪える、夏は如何であるかと言ふと、今度
の戰爭、去年の夏を通過して來たが、熱くて仕方の
ない場合には水の中に飛込んで一時の熱さを凌いで
進軍すると云ふ位て、實に熱いけれどもアノ重い所
の物を背負つて、實戰てあるから種々の重い物を持
つて、さうして突撃をすると云ふやうなことも充分
出來得ると云ふのは、則ち熱さにも堪えさうして寒
さにも堪えて自分の任務を全うすることの出來ると
云ふのは、是は日本の兵士達が身體を豫め能く鍛
えて寒さにも堪え熱さにも堪えると云ふことに鍛上
げたる結果である、此寒冷にも熱さにも能く堪えて
さうして任務を全うし得ると云ふ身體の軍人は實に
結構である、此結構なる特性は日本の國民悉く有つ
て居るかと言ふと隨分有つて居ない者がある、而も
日本の上流社會或は御婦人社會の人などは此性質

が缺けて居りはせぬか、即ち上流社會の人は家へ
歸れば暖爐が焚いてあつて暖かにしてある、或は家
の內外を問はず常に着物を澤山着る、殊に上流社會
の人が子供でも持たれると戶外へ出るのに寒いから
下着も着ろそれから上に上着も着ろと云ふやうな工
合にやられるのでありますけれども、さうすれば必
ず氣候に對する抵抗力が減つて來る、デあるからさ
う云ふ生活をせられる人は稀に寒い日に用事の爲め
外に行くと寒冒を引く、頸卷をするとか手袋を用ゐ
るとか云ふことも同樣てある、西洋の人は帽子を始
終冠つて居るから帽子をぬいで少しく路傍に立つて
居ると直に寒冒を引くと云ふやうな工合である、併
し西洋のやうに戶外へ出るには帽子を冠らなければ
ならぬ、人に接するには手袋を用ゐなければならぬ
と云ふやうに、世の中の習慣がチャンと定つて居れ
ば容易に忘れぬからそれが爲に寒冒を引くのは稀で
ありますが、日本ては生活する上に就て實に不規則
です、手袋を用ゐなくても禮を失したと云ふてはな

い、又帽子を冠つて居ないでも失禮と云ふてはない、社會の制裁が無い人々の意通りに爲して居るのである、さう云ふ風に餘り種々な事をやり居ると時々忘れる、忘れると平生の習慣と違つた事をやるのであるから寒冒を引く、デあるからチャンと定つて居れば宜いけれども定らぬものは成べく單純にして欲しいのである、私共は頸卷などは致したことはない、成だけ衣服は着薄をして寒くても寒冒を引くものかと云ふ元氣を出して居ると寒冒など引くものでない、胴着などは着ろと言はれても決して着たことはない、其御陰であるか唯今申したやうに、日清戰爭の時なども兵隊のやうな生活をして居つたけれどもチッとも寒冒も引かずに任務を盡して來た、デありますからして成だけ暖くないことに慣れるやう餘計に衣服も着ないやう室なども餘り餘計に溫めぬやうにして、さうして能く戸外に出て寒氣に身體を當てゝも堪えるやうにして行きさへすれば、決してどんな氣候の變化が來ても差支ないやうになるだらうと思ひます、却て上流社會の人にさう云ふ風に無理々々自分を弱くする傾向がある、さう云ふ方は抵抗力の少ない爲に惡い病氣を惹起すことがあるかも知れませぬから、能く寒冷に堪えるやう身體を鍛えると云ふことを爲すつたならば宜からうと思ふのであります。

乃ち病氣は澤山ありますけれども、兎に角寒冒を引かぬと云ふ事を充分に御心掛になつたならば、それに依て健康な身を有つことが出來る、健康な身を持つことが出來れば一家の内の精神に變化を受けることなく、身體各部に來る病氣も減つて來て私の理想通りの即ち一家團欒和氣藹々の家庭を作ることが出來やうと思ひます。(完)

寄書

●肺結核は遺傳せず

醫學士　竹中成憲君

世人は肺結核が恐るべき病であることを知つて居ると共に其病氣は遺傳であると信じ居る其れは大なる誤信である肺結核は遺傳でない從つて罹らざるべく防ぎ得るのである遺傳説は大體に於ては直接遺傳と間接遺傳の二ッであるので直接遺傳とは結核菌其のものを父體より受くる精液傳染母體より受くる胎盤傳染との二ッであるが由來實例に徴して精液傳染は未だ確例がなく胎盤傳染は存在して居ても甚だ稀なので實證などに引用は出來ないのであるされば此直接遺傳説は論據のない空説に過ぎないのである其れから間接遺傳は結核性血族より同一體質を子孫等に傳ふるを云のであるが此間接遺傳にも又た直接と間接との二ッがあつて直接遺傳は兩親の中の結核あるものから受くるもので間接遺傳は自他の血族中の結核あるものから受くるのである血族は極少數に見積つて十三人はある處で正確なる統計は死亡者七人中には肺結核患者が一人あることを證據立て丶居る去れば十三人の血族中に一人の結核患者があつたと云つて鷩くべきではない從つて血族遺傳説は信じられない。

這んな工合に遺傳説は悉く根據が薄弱である獨逸のベルンハイム氏が双胎を分娩した三人の女子に就て毎回一兒は健全なる乳母を附して母と同棲させ一兒は之を里子に遣つたが三回とも母の膝下に殘された兒は死んだのに里子にやつたのは健全に成長したのであつた又同氏が兎及び犬に就て研究した結果は其親と同棲するものに限り結核に罹つて生後親から離して育つたのは罹らなかつたとのことである此實證は確かに結核は遺傳にあらずして傳染であると斷

言し得るべきものである。

斯くの如く肺結核遺傳説は悉く根據の薄弱なので信ずるに足らないのである世の人達よ若し兩親の内肺結核のものあらば斷じて母懷を離して他所に於て養育させられよさらば其兒は健全に成長せん結核は遺傳性の病患にはあらざる也。（了）

●竹中學士に謝す

先生の健筆にして勵精なることは世既に定評ありといへども本會の常に感じて止まざる處のものは氏が本會に有益なる原稿を寄送せらるゝはもはや多年をもて算するに至る而も報酬とてもなきに將務の繁劇に拘はらず一ケ月たりとも寄稿せられざることなし又氏の著書は夥多にして斯道に貢獻せらるゝ處頗る多し氏の頭腦の明晰と篤學とは實に江湖に其比を見ざるなり感ずる處あり茲に特書して氏の勞を謝す

●食育に就て

日本橋衛生調査所主任　遠城兵造君

家庭教育上食育の大切なることは今更喋々するに及ばざれどさりとて世人は殆んど之を唱導するもの少し茲に遠城氏は感ずる處あり本書を草して當會に寄送せる誠に篤志の事と云ふべし尚同氏は本月より日本橋衛生調査所の主任となり公衆衛生の爲め同區内公衆の爲め無料にて各種の檢査に從事せらる尚同區外公衆の依賴に對しては別に規定せる檢査料を徴收すといふ詳細は本誌雜報に見られよ

茲に揭ぐる者は且つて某小學校生徒父兄懇親話會席上に於て學校醫として述べられたる者なりと

兒童を養育するに必要なること數多あるも特に食育なる新熟字を揭げ之れを唱導する所以の者は蓋し世人が養育に大切なる食育のことを等閑に附し多くは從來の習慣に甘じ改良せざるは全く個人的衛生智識の發達せざるに因るされば出生の初めより生命を保

須し身體を增育するには必ず食育によらざるべからず其未だ身神の發育充分ならざる小兒期にありては固形の食物を攝取し消化し能はざるが故に乳汁によりて養育せざるべからず漸次身神の發育するに從ひ齒牙の發生を得て固形の食物を與ゆるも自から咀嚼して消化を營爲す倘ほ成長するに從ひ食物を撰擇調節して榮養を營爲するは自然の階梯なるも特に食育のことは自然に放任して身神の發育上敢て差閊なきか或ひは否らんか兒童の身神は植物の培養と均しく規則ある食育によりて強壯となり不規則の食育によりて薄弱となるは極めて自在なるものなり世の父兄は日夜身神を勞して之れが圓滿なる結果を希望し善良なる功績を擧げんと欲するの念常に止むべきに非ずかくの如く兒童養育上重大なる責任と希望を有するに係はらず現時の家庭に於ける食育智識の如何を觀察し來たらば轉た吾人の寒心に堪へざること少なからず蓋し食育のこと多く家庭教育に屬し之が責任は多く父母にあり故に世の父母たる者は養育上常に食育の理を充分に了解し兒童養育上に實行し善良なる美果を收むること第一なれ諺に曰く身體強壯ならざれば精神強壯ならずと宜なる哉身神強壯ならざる兒童に遠大の希望を囑するも到底成功の覺束なき亦兒童身神の上に於て堪へ得べきに非ず終生一身の不幸之れより大なるはなし

兒童養育上食育の重大なる關係を有すること斯の如し然れども兒童保護者にして食育の智識を有せざる限りは例へ吾人が食育の普及を希望するも如何ともなす能はずして自然に放任せざる可からずされど科學の進步は自然放任を許さずして智識の改良を注入して止むなきも倘進むで注入し食育の理は果して此の如き妙理を有するかを智得せしめんと欲するが爲めに左に消化生理の一般と其結果を略述せんとす

（壹）食物消化の機能

口腔胃及腸は食物を消化する主要機關にして日々攝取する食物の一定量は必ず一定時間に消化して身

體の營養分となる者なり而して口腔胃及腸が食物を攝取して消化する機能は米飯にあれ麥飯にあれ肉類にあれ、野菜類にあれ必ず溶解性の物質に消化したる後にあらざれば決して組織中に吸收して身體の營養分となる者にあらず

(貳)食物消化の順序

食物を口腔に攝取するや先づ齒にて細かに嚙碎き唾液を混和して軟化せしめ且つ粘液性を與へ嚥下機を便にし或る物質を溶解して味覺を感ぜしめ或ひは唾液の「ジヤスターゼ」は澱粉食(米、麥、芋類)働きて口內消化を營みつゝ嚥下せられて胃に達し玆に三四十分時間唾液のため澱粉食類の消化機能を持續する間に胃の主腦たる鹽酸及「ペプシン」(蛋白の消化素)を分泌して蛋白食(肉及び玉子類)の消化を始むるや胃液の鹽酸によりて唾液「ジヤスターゼ」の機能を防止するが故に澱粉食の消化は一時中止す又脂肪及野菜類は胃に於て消化する機能は有せざるが故に消化し終らざる米麥食と共に胃の運動により腸に送り下げらる蛋白食は獨り胃に止りて充分に消化機能を營爲する者なり尚ほ胃にて消化せざる蛋白類、米麥類、野菜類及脂肪類は腸に於て更に膽汁膵液及腸液の混合消化液に逢ふて再び充分に消化を營み終るべし尚ほ消化し難き食物の殘渣は糞便となりて肛門より排泄す

(參)食時間と食量の一定

食物消化の難易は食物の性質、分量及び時間による者なり健康なる人の胃は一食(朝食、晝食、夕食)五時間にして全く消化し終るものを通例とす故に第二の食事をなすにわ必ず五時間を隔てざるべからず且つ食物の分量は體力と勞働によりて多少斟酌せざるべからざるも常に分量を一定して過食すべからず又小兒一回の哺乳も出生の年月により哺乳量に多少あるも多くは消化に二時間を要する者なり故に第二回の哺乳には是非共二時後ならざるべからず而して小兒の哺乳にあれ大人の食事にあれ消化時間中に慢に食物を與ゆることは忽ち消化の機能を防げ遂には停滯となり或ひは醱酵となり胃腸を損するの、原因となること屢

々なれば頗る注意せざるべからず

（四）營養食物

身體の健康を維持し營養の退行を補給するは一晝夜二十四時間に凡そ百九拾三匁位の混合食を

蛋白類　百三十匁（肉、玉子類）

脂肪類　十一匁（油類）

澱粉類　百五十匁（米、麥、芋類）

攝取せざるべからずされど單に蛋白類即ち肉の一品のみにては身體を養ふものにあらず又澱粉類の一品のみにても同樣にして必ず以上の食物を彼是適宜に混合して常に用ゆるにあらざれば決して身體の營養を維持し增育する者にあらず例令は玆に示し置く處の營養物と雖も分量を超過して用ゆる時は反つて胃腸を過勞するのみにして容易に消化する者に非ず故に營養食物と雖ども適宜調合して用ゆることそ肝要なれ

（五）不規則なる食育に因て起る身神の不和

食時、食量及び食物調和の不規則に因て起る處の身神の不和は敢て尠からず就中兒童發育上最も恐る可き容體は身神の不和にして常に身體倦怠を覺へ精神沈滯して剽悍活潑ならず記憶力著しく減退して極めて物事を忘却し且つ思慮を要することあれば忽ち腦中朦朧として判斷を缺く等兒童教育上必要なる記憶及判斷力の減退は屢々起る障害にして兒童發育の時期に於て最も注意せざるべからず是等身神の障害は全く食育によりて豫防し亦た食育によりて矯正することを得べし

前述により食育の必要なる所以と食育の順序を了解し之れを兒童保育の上に實行し尚ほ進んで兒童の腦裏に注入するに至らば身神の改良は固より疾病を統計上に減少し以前に倍する結果は期して待つべきなり

大家談叢

ドクトル緒方正清氏の家庭衞生

●姙娠の攝生（つゞき）

▲產褥時の陣痛　分娩の條で述た如く、陣痛は必ずしも分娩時に限つたものではなく、產褥中においても子宮を收縮せしめるがために、屢ば間歇性に疼痛を起すものであつて、これを產褥時の陣痛と名づけ、俗には後腹が痛むとかいふて、頗る厭がるやうであるが、これは生理的に必となければならぬもので、若し分娩後の陣痛がないやうであると、却つて子宮が弛緩んで收縮することが遲いから、從つて創面の治癒に長き時間を要し、またこれがために、子宮腔內に分泌物などを吸收して、發熱することがある位で、畢竟分娩後の陣痛といふものは、子宮の內容物を排泄する疼痛であつて、恰も分娩時における陣痛と同一の力を有するものである。併し若もその痛みが過激である場合には、或ひは子宮內の凝血とか、胎盤の遺殘などいつたやうな原因があるかも分らぬから、早速醫師の診斷を請ふて、相當の治療を加へねばならぬのである

▲腹壁の保護　わが邦では、姙娠中の腹帶は神の保護といふて、誠に大切に心得てゐるやうであるが、分娩後の腹壁保護の極めて野蠻的であるのは、謂ゆる始めあつて終なきものとでもいはふか、祝つて結ふ岩田帶、月は五月、日は百五十日、心をこめて結ふたそれとうらはらに、九仭の功を一簣に缺く亂暴さは、實に惜むに餘りあると言ねばならぬのである、て、この腹帶の仕方によつては姙娠中に起つたるところの腹壁の弛緩、又は分娩後の脫腸とか、懸垂腹とか、腹壁の皮膚における脂肪の蓄積とかを來して、他日不良の疾病を起すことがあるから、歐米では非常に大切に扱つてゐるが、日本の舊產婆などは前にいつたやうにこれこそ以ての外の亂暴で、瓢箪結びとかいつて瓢箪を括つたやうに強く腹をしめ、俗人も亦分娩後には逆暈するなどゝいふて、好むで

その亂暴を迎へ、瓢箪扱ひにされて滿足するとはうたてかりける次第である、そこで斯やうな取扱をされた結果を、更に委しくいふて見ると、非常に腹壁の弛緩を來して、腸胃の位置などの變化を起すために、消化不良、若くば純然たる腸胃病を起すとがあるのである、それからまた、一度分娩をすると、その腹を見ないでも直ぐそれと分明るほどになつてゐるので、これといふも全く、保護の行屆かぬからである、全體分娩は、その度數の加はる毎に、腹壁の抵抗力が愈よ減却して、遂には宜しくない結果を來すものであるから、これに對する保護は自分必要な理で、産蓐の時期に、必と合法の腹帶をせんければならぬが、その最も適當なは、木綿、若くばフランネルを、木綿巾のまゝ二三重に卷くのである、現今の助産婦はこの方法を心得てゐるから、決してこれ迄のやうに瓢箪結びなどにはしないで、即ち平ッたく腹を卷くのである、それから尚また腹壁には、一二寸の厚さのある綿を貼布して、それで子宮を壓迫すると、一層の妙用がある理で、それは單に腹壁を保護し、温ため、又たその收縮を促すばかりでなく、子宮の收縮をも促して、自然に創面の治癒を助けるやうになつて來るのである　（未完）

▲食養生

ドクトル メヂチーネ　松本育之助氏談抜

◉健康人の食餌

先づ醫者が診察をして、何所にも身體に異狀がないと認める者に對する食養生をお話しやう、尤もこの種の人々の中にも、痩せたのもあり、肥えたるもあり、長幼男女とり〲の別はあるが、總て人間は、精神をも身體をも働かさずに、時候で譬へていふて見ると、深窓春濃やかなあたりに、妙なる鶯の音に耳を娯ませ、歌書や小説を繙いて、無事に苦むといつたやうな今樣の才子佳人であつても、體内には物質が消費せられてゐるのであつて、吾人の體内には常に温度が發生せられ、外圍の狀況に關係なく攝氏

卅七度内外の體溫を保たねばならぬのである。でこの溫度を發生するには、燃料として抱水炭素や、蛋白質や、脂肪の分解が起るのであるが、その結果、燃燒して出來た身體に要らぬものは、肺臟から呼出氣と共に出て、腎臟からは尿となり、その他皮膚、腸管等から體外に排泄せられるので、又た身體を構成してゐる細胞も、一定不變のものでなく、一部づゝ頽廢して新らしきものに依つて補はれてゐる、近い例を擧て見ると、如何に塵埃がつかぬやうにしてをつても、皮膚には謂ゆる汚垢か出來て來るが、これは皮膚の外面にある表皮といふものゝ漸次頽廢したのが、大部分をなしてゐるのである、また血液の中には血球といふものがあつて、これも漸次新陳代謝してゐるので、消化器の上皮細胞、又は實質臟器（肝臟腎臟の如きもの）の細胞も、皆一部づゝ頽廢せられまた補はれてゐる、それに腦の細胞でも、心臟肝臟脾臟の細胞でも筋肉纖維でも、凡て身體を構成してゐる元素は、皆一定の物質を消費して、これは皆血液の方から補充するのであるが、その物質消費から、出來た無用の産物が滯積すると有害であつて、それが多量になると、種々な病氣が起つて來るのである、彼の腎臟炎の時に、時々起る恐ろしい尿毒症、糖尿病の時に來る糖尿病性昏睡、又は痛風等はこの例であつて、これ等無用の産物は、術語では物質代謝の產生物といふて皆それ〴〵の徑路を取つて、體外に排泄せられるのである

閑坐靜居して、爲すともなく過してさへ、斯く一定の物質消費があるのであるから、若し身體を勞役させたり、精神を働かせたりすると、勿論身體内の物質消費が頗る旺盛となるので、この消費は是非共補つてゆかねばならぬのは、理の當然で、隨つて食物攝取の必要が起るのである、それで、吾人の呼吸する時に、吸氣と共に肺臟内に入り、こゝから血液中に入る酸素も缺く可らざる滋養素ではあるが、通常口腔から食道を通つて、胃腸にゆくものを食物といふから、こゝではお話をするとを止めて唯だ新鮮な

空氣を吸入することが極く大切なとであるのと、それから酸素の供給が十分でなければ、消化器内でよく消化せられて血液中に入るとを得た滋養品も、十分に益用せられ難いのみならず、且また酸素がなければ人間が生てゐるとが出來ぬといふとだけを、御承知を願つておかう、それはさて置いて、斯く體内の物質消費があるに就ては身體の現狀を維持するには、その消費を補つてゆけば可いのであるが、若し身體が當に發育しつゝある時機、即ち小兒であると尙ほこの發育を要するだけを、多分に供給せねばならぬ理で、又た大人であつても、若し身體の現狀を改善せねばならぬ場合には、言ふ迄もなくそれ丈のとを、食餌の方で加減せねばならぬのであつて、即ち健康者の食餌として、こゝにその肥たものを瘦せさすとか、瘦せたものを肥えさすとかいふとに就てお話も出來、又たお話する必要もあるといふとになるのである



質疑欄

●質問注意● 質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみなわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御通知の事●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

答辯　竹中成憲

新潟市一會員よね子孃に御答を致します

一應御尤でありますが「下婢健康診斷規則」というやうなものを設くるよりも先づ下婢を雇度きときは本人を自身の信頼する所の醫師に到らしめて其醫師の健康證明書を御取になれば十分です國家的に下婢の國に及ぼす害は當局者も夙に御存にてコレは軍國の今日既に廣島の如き地に英斷を以て行て居ます其理由は玆に說明致しませぬ。

既に同人使用の火吹竹に觸れたる人は勿論觸れたる

と否とに係はらず其下婢の來りたると否とに關せず何人も身體の强壯を圖らざるべからざるものなるがゆへに拙著「肺結核豫防法」に據て身體を强壯になさるれば則ち可なり强壯なるものは細菌の襲來を防ぎ得る事我滿洲軍の敵の逆襲を朝飯前に打ち破るが如くにして既に侵されたるものも療法の要點は同一に御座候」

理髮店の職人にして肺病らしき者が咳をしながら吾人の顏を剃るには閉口に御座候マサカ自分の宅より醫師を同道して先の職人の健康を檢する事も叶はず之を思へば自家へ雇ひ入るゝ下女の健康を調ぶる位は掌をかへすよりも易く御座候

毎度私が申述候通、貴孃も（御獨身かは知らざれども）御連合樣の萬一にも（コレハ失禮）肺病になられたる場合之を捨てゝ御實家へ歸る事は出來遊されまじく隨て前述の「自身强壯法」を御行なされず候ては叶不申此法さへ御行なされ候はゝ下女の火吹竹位はバルチック艦隊の一けふり」位のものに可有之候

問　ソップの成分は如何なる滋養有之候や伺上候

質問者　地方の一會員

答　ソップは牛肉雞肉などを煮出してソップに作りますが牛肉百分中六分は冷水に溶解し二百九十五分は煮沸すると凝固まりあとに殘るものは無機鹽類、クレアチン、クレアチニン乳酸鹽類、イノチン膠質等でありますからソップは眞の滋養物と申し難ひのです只成分中の「イノチン」の如きは神經興奮强壯性を有して居りますから寧ろ筋を强壯ならしむるものです併しソップ中に肉の大切れを入れてよく煮沸すれば滋養の力は大きいものです

質問者　芝區の一會員

問　私親戚なる三十二歳の男子屢々腰部などに俗に申す根太が出來てこまります如何なる故に候や又療法等伺上候

答　是れは腰部ばかりではありません頸部などにも出來ます一つ出來ると其次ぎ〳〵といくつも出來ますから俗に根ぶ十と申して居ます根太は總て元氣の

よい人に出來まして此原因は爪て掻くとか或は着物て皮膚を摩擦するときに化膿黴菌と申して膿を作る黴菌が皮膚の毛穴から皮脂線の中に入り込みましてソコに膿を持つのです

根太は左程危險なものではありませぬが只之れが顔に出來きた時は速やかに治療せねといけません世間て面疔と申しまして恐れますのは此わけてす

ソコて御質問によりまする御親戚の男子は根太が度々出來るとしますれば或は糖尿病の疑ひがありますが醫者に就て尿の檢査をして御貰いなさい糖尿病の人には屢々根太が數限りなく出來まして大に困ることがあります根太は出來始めにはやくなほしてしまうが一番よいのてソレは「ピック氏」の膏藥を貼り付け置くのがよい自然と消滅し痛みも又去るものてすもはやひどくなッたら切開するより致し方はありませんソーすれば夫れて又痛みも取れて癒ります

質問者　本郷一會員

問　肺結核の疑ひあるもの家内にこれあり候如何に豫防致してよろしきや

答　肺結核の疑ひありとすれば豫防の注意は實に枚擧に遑あらずと申す程てありますが先づ唾痰の消毒(同量以上の二十倍石炭酸水)(結晶石灰五分鹽酸一分水九十四分)を加へよく攪拌し一時間以上置くこと●又患者の末期にありては糞便の消毒も仝上●汚染したる衣服寢具飲食器の消毒及尚左の事項を注意すること

一、患者と家人とは成るべく寢所を區別すること
二、小兒等は成るべく患者と同衾せしめざること
三、患者と家人とは飲食器具を共用せざること
四、家人の寢具の上敷等は時々熱湯を以て洗ふべきこと
五、家人の寢具は時々日光に曝らすこと
六、室内に光線を射入せしむること
七、室内の疊は時々濕布をもつて拭ふこと
八、患者自ら家人に傳染せしめざる様咯痰に注意すること

肺病は不治の病氣てはありませんから氣を落さず初期の内に早く癒やさねばなりません

質問者　本所　一　會員

問　兎肉と牛肉、鷄肉との滋養量の比較分析表が御座いますなら御教示願上候

答　右三種の内ては矢張り牛肉が一番滋養力に富んて居る

	水分	含窒素	脂肪	可溶性無窒素	鑛物質
牡牛肉	七二、二五	二〇、九一	五、一九	〇、四八	一、一七
牝牛肉	七〇、三六	一九、八六	七、七〇	〇、四一	一、〇七
牝鷄肉	七〇、〇六	一八、四九	九、三四	一、二〇	〇、九一
兎肉	七四、一六	二三、三四	一、一三	〇、一九	四、一八

質問者　高崎　一　會員

問　魚肉と牛肉との滋養は申す迄もなく牛肉の方優れりと存じますが又經濟上にも關係致しますから此二者の滋養力に付比較御教示願上候

答　今魚肉と牛肉とを比較して見ますれば（一キロガラムの魚を取りましても其肉は僅かに四百四十五匁丈けであとは骨或内臓等てありますが眞の肉丈けに就て申しますと）魚肉を二百七十匁丈け買ひまするに、廉い魚、高い魚も有りまするが、是れを平均して見ますれば、魚肉一キロガラムに對して、價ひが六十五錢てす、而して此魚肉を分析致しますると、水、含窒素物、脂肪、無窒素物を含んて居る。其水は魚肉一「キログラム」中に七九、九、グラム「含窒素物一八三、四グラム脂肪五、一〇グラム無窒素物六、三〇グラム灰分九、三〇グラム含まれて居ります。今一キログラムの魚の中に含有せらる含窒素物、脂肪及無窒素物の價格は何程になるかと云ますれば、其一キログラム中に含まるゝ含窒素の一八三、四に一圓八十錢を乘じ、脂肪五、一〇に六十錢を乘じ、無窒素物六、三〇に三十六錢を乘じて是れを總計すれば、魚肉一「キログラム」の養價を得ます彼樣に計算致しますと魚肉二百七十匁の價六十五錢の養價三十三錢六厘といふ者が出來る。シテ見ると六十五錢の魚肉の中に三十三錢六厘だけが人體の營養となるべき養價にして、殘り三十一錢四厘は全く無益の物

に仕拂致す代金であります。
又牛肉は一「キログラム」即ち二百七十匁三十五錢で有ります。牛肉、一「キログラム」中の成分を見まするに水七二二、五「グラム」蛋白質二〇九、一「グラム」脂肪五一、九「グラム」無窒素四、八「グラム」であります。牛肉の中に含で居る成分に對して價格を算用すると、牛肉を三十五錢で買ひまして、其中に含で居る養價は四十錢九厘になる僅か三十五錢で買ふたる肉の中に四十錢九厘の養價が含まれて居ります。魚肉の方は六十五錢拂ふても三十三錢六厘しか養ひに成るべきものを含で居りませぬ。サウしますると牛肉の養ひになる價ひ即ち四十錢九厘に對する丈けの養分を魚肉から取らうとするには、ドレ丈の價ひになるかと云ふに牛肉三十五錢に對して魚肉の價凡八十錢を出しませんでは牛肉と同樣の養ひになる滋養品を得ることか出來ませぬ。ソレ故魚肉より養分を取らんとするには牛肉より殆んど二倍半の高價になります、而して其價格は我々のからだを養ふに就て必要の物ではござりませぬ、言ひ換へて見れば贅澤のために餘計かゝるので、からだの爲めには三十五錢の牛肉も八十錢の魚肉も些も違ひありませぬ。是れ等が最も食物の不經濟の點で有らうと思ひます。

東京通常會員

問　此頃捕虜が澤山參へりましたので肉類が高價になりましたが聞く處によれば普通人に賣ますのに馬肉を混ずる奸商もありとか候へば牛肉馬肉の見分け方御教示下され度願上候

答　牛肉の色は御承知の通り鮮やかな紅色を呈して居りますが馬肉は暗赤色で水を入れて煮ますと馬の小便ぢみた臭氣があります又肉の切り目が牛肉よりも硬く纖維が菱形をして居りますが牛肉は馬肉より柔らかで纖維が長方形で脂肪の色は馬肉は淡黃色ですが牛肉はまづ白ろい色と申してよいのですまづ此位で凡御わかりでしやう

御注意診察せねば分らぬ樣な病氣に就き治療法〱と云はるゝ御方多く答辯に誠に苦しみ候間可成右に關することは御止めに相願候

中外彙報

▲壞血病に就て　旅順敵兵の往々患ひ居る壞血病に就き某軍醫監の談を聞くに該病は往時航海病と稱せし一種特發の病氣にして新鮮なる糧食特に生野菜の不足に原因し空氣流通の不良なると光線の透徹せざるも亦發病を間接に幇助す之を以て該病は往々航海中或は監獄等の生料品缺乏の箇所に發生するものなり但し露國は古來該病發生の本場とも云ふべく斷えず盛んに發生し居れり我內地にても一昨年九州某炭坑に十數名を發生したることあり又二三年前友野橫須賀海軍病院副長より報告の一節に同地在勤の某巡査は平素體格薄弱にして寒冒に罹り易きを患ひ滋養品の缺乏なりとし日々肉食を繼續し三ヶ月間も野菜を食せざりしかば忽ち反對の病狀を現して貧血症類似の病を發し醫藥効なく遂に死亡したるが後に至り解剖の結果壞血病なりしこと判然し益生野菜缺乏は同病發生の主因なることを證據立てたり其發生初期とも云ふべきは身體皮膚の抵抗力弱く歯齦海綿狀を呈して出血し次第に關節及び內臟痳痺并に腎臟出血を起し婦人に在りては子宮出血を起し重症に陷るものにて旅順港內は久しく攻圍を受け居たれば確かに生料品の大缺乏を告げ居りしものなるべく我閉塞隊員の十一名及多數の露國俘虜は皆該病に罹り居れりといふ去れど幸にも同病は傳染病にあらず又我閉塞隊員は皆輕患にて我病院船收容後は經過良好全快近きに在りといへり

▲ベルツ博士の歸國　其醫界のために貢獻されしことは普く江湖の感謝する處にして歸國に際し　兩陛下の謁見を仰せ付けられ恩賜品を拜受するに至りしは無上の光榮と云ふべし

今日醫界の淵源たる東西兩大學の重なる教授はいづれも其薰陶を蒙らざるなく大學を去つて後も名譽教

授の地位にあり嘗て東宮殿下の御異例の際侍醫と商量して次第に御輕快を拜するに至り厚き御親任を忝うするの光榮を得
又我國一般の衛生上温泉場海水浴場等の盛况を呈し靜療の適地と認めらるゝに至りしも又博士の卓効を認めて主唱せる結果にて之れが爲めには寂寞の漁村を訪ね或は遠く山間を跋渉して實地に之を試驗し病症の適否により之を世に公にせしによるといふ
尚博士の冀望には衛生上外堀の浚渫行き届かざるは一大欠點なれば切めては此濠を埋めて完全なる下水となし市の體面を保たれんたしと
日本人の常食に就ては麥飯及米飯と適當なる野菜を取り程よく肉類を調味すべく肉食論菜食論の如き偏見に迷はず從來の通りにて充分健康を保つ事の當を得しを確信すと
氏は日本人の神經に就ては深く研究せしかば其處方は一々適中し益々其名聲を高むるに至りしなりと他日神經に關する大著述は完成すべしといふ

▲無痛の種痘　某醫學博士の談に種痘は幼兒程よろし生後五十日か四十日で立派に良成績を舉げ得るとのことである又新式の切種法によりて精良の痘苗を施す場合には殆んど無痛全樣で且つ十中七八は發熱せずすむ小兒に痛苦を覺えさするのは主として舊式で其發熱の原因は重もに痘苗を吟味せぬからのことであるされば成るべく新式の醫家に就て種痘を施すをよしとすといふ

▲長壽者　加奈陀モントリオルのヒエール、フォルジエー夫妻此程結婚後七十五年の祝賀を催ほしたるがロージエーは百歳六ヶ月妻は九十六才共に尚矍鑠たり子は十三人あり其中六十九才の一女は本年金婚式を舉げたりと蓋しフォルジエーは長壽の系統を受けたるものにして父は百歳母は百四歳まで存命したりといふ

▲日本橋衛生調査所

仝所は日本橋箱崎町一丁目永久川岸八號にあり日本橋衛生協會の附屬として遠城兵造氏其主任となり左

の主意にて今回革新檢査に應ずといふ

本會附屬衛生調査所は明治卅三年創立以來相當の檢査料を徴收し公衆衛生上病毒調査の依賴に應じ來たりしが今般本區より該事業を奬勵し補助費として衛生恩賜金の利子を下附せらるゝこととなり仍て本會は大に從來の組織を改革し區内に於ける傳染病豫防撲滅の効果を全からしめんが爲め本年五月一日より區内公衆の依賴に應し無料にて各種の檢査に從事すと左記調査所檢査規定は左の如し

檢査規定

本所は病毒調査のため各條に就き細菌學的檢査を行ひ其成績書を交付す

一、咯痰檢査（結核菌、肺炎及寄生蟲證明）
一、義膜檢査（實扶垤里菌證明）
一、淋巴液檢査（further）
一、膿汁檢査（淋毒菌、破傷風菌及結核菌證明）
一、血清反應檢査（「ウイダール」氏血清反應證明）
一、血液檢査（血球、病原菌及「プラスモジユム」證明）
一、胃液檢査（鹽酸定量及「ペプシン」消化力證明）
一、尿檢査（病原菌、寄生蟲、血球、膿球及尿圓柱證明　蛋白、糖、膽色素、血色素、「インジカン」及「ジヤツチ」反應定性證明）
一、糞便檢査（「コレラ」菌、結核菌、及寄生蟲證明）
一、母乳檢査（性狀、比重、乳球大、小及脂肪量證明）
牛乳其他檢査上手數を要するものは特に檢査料を徴收す
檢査は日曜日を除くの外每日正午十二時より四時迄とす
檢査を依賴せらるゝ人はその時間までに持參せらるべし
檢査物の容器は必ず熱湯にて洗滌したるものを用ひらるべし
咯痰は早朝咯出せしものをよしとす
尿は食後三時後に排泄せしものをよしとす
母乳は搾乳後直に持參せらるべし
本區外公衆より檢査を依賴せらるゝときは本所に於て別に規定せる檢査料を徴收す

▲小石川植物園　今はあやめけし其他の花卉が盛りに咲いて美事！植物には一々名稱が付いて居るし閑雅幽邃の處觀覽料僅か二錢御婦人方や小供衆には此上もなき閑靜な遊覽地です東京の御方は御天氣のときは御散歩旁御出懸如何？

▲小供と睡眠　獨逸では小兒の寢て居るとき搖り動かすと馬鹿になると云ひ又日本でも小供は決して搖り動かしてはならぬとは多くの醫者の母たる人に下す禁令ですがソウかと云ふてムリに寢かすもよくない併し餘り永過ぎも又よくない程度です左に

五六週間の赤兒　每二時間位起してあとは眠らせてよい
二歳迄は　十六時間乃至十八時間位

三歳から四歳　十四時間乃至十六時間
四歳から六歳　十三時間乃至十五時間
六歳から九歳　十時間乃至十二時間
九歳より十三歳　八時間乃至十時間
之より以上は　六時間乃至八時間

▲狂氣を治す法　佛國巴里の醫師レオン、ドモタン、ルロットといふ人が同市のヴィレジュイフ癲狂病院に於て其多年研究したる結果を發表したる狂人治療法こそ斯道専門の醫師が大に注目すべきものなれ、其方法とは

瘋癲患者が多年執り居れる手工を爲さしむる事にて同人の云ふ處によれば其手工はたしかに患者の心を其仕事に傾けさせ仕事が滿足に出來れば出來る程心も次第に秩序を回復するに至るものなりと、其一例として同人の擧ぐる處の刺繍に熟練なる一婦人の如きは癲狂院に入りし初めこそ其手工は平日に及ばざりしも其調子には格別狂へる處なく其手工に親しむに從ひ心も落着くを見るに至れり云々（萬朝報）

▲深川のペスト　ペストは益々猖獗を極めんとするの傾きあれば此際各人の注意は尤も緊要なり聞く處によれば横須賀千葉にも發生し近き神田區内にも有菌鼠を發見したりと其筋にては嚴重に其出所を取調中なるも尚不明なるが取あへず有菌鼠の發生せし近傍に豫防消毒を行ひ尚各戸の健康診斷をなすべしといふ

▲香川縣ペストの猖獗　去る五月三十日香川縣綾歌郡玉越村に發生せるペスト患者總數は去十四日迄に三十一名内死亡十九名の多きに達し殊に最も恐るべき肺ペスト患者も續出し昨今益々蔓延の傾向を呈せしにより其筋に於ては同縣下檢疫官二名檢疫醫二名を特置し更に内務省より派遣せる淺川安東の兩檢疫事務官と協力して之れが撲滅を講ずる方針なりと

▲韓國慈惠病院設置　李容翊は慈惠病院を設置せんとし皇帝の裁許を得たり組織は我が東京慈惠病院に倣ふ筈にて交渉中なり

▲篤志なる看護婦長　昨年開戰後率先して赤十字社

看護婦たらんとを志願し自ら養成したる看護婦を引率して廣島病院に勤務中なりし秋間ため子は首尾能く一期間を勤續して此程歸京したるが其筋にては一行に對し篤志看護婦の取扱をなさんとせしもたね子は故に固辭して普通看護婦となり特に傳染病を擔任して專心努力する所あり且つ去る二日辭職を願出づると共に俸給全部を赤十字社に寄附したりと云ふ

▲リチヤードソン夫人　廣島豫備病院に於て看護に勤務中なりしリチヤードソン夫人は本月上旬新橋着列車にて上京せり當日は鍋島侯爵夫人を始め各貴婦人赤十字社員並に看護婦等多數の出迎ありしと

▲私立衞生會總會　大日本私立衞生會定期總會は二十一日午前九時より赤坂溜池三會堂に開き副會頭北里博士議長席に着き金杉理事長より前年度の成績及び會計報告あり夫より同會規則改正案を議し次で役員改選報告あり午後は三宅、三島兩博士の前年度内國及び海外衞生上の報告、石黑博士の「占領後に於ける旅順飲料水」北里、緒方、大澤各博士等の衞生上に關する演説あり畢て芝紅葉館に於て懇親會を催ふせりといふ



大日本婦人衞生會記事

六月例會

六月三日午後一時半より例により神田區一ツ橋通女子職業學校に於て例會を開く當日は總裁　東伏見宮妃殿下にも御臨場あらせられ第一席醫學士岡田榮吉君には浴療法に就て醫學博士三輪信太郎君には小兒保育談に付き熱心に講話せられ四時過散會せり

當日役員には鍋島會長、濱尾副會長、緒方、石川、松平、山本、長谷川、羽田、田村、高木、宮下、岸三浦、小川、相馬諸氏出席せられたり



傷病者帽子寄附

一金五圓　神田區鍛冶町七番地　堀内ゑん子

一金壹圓　小石川區原町　萩原　久子
一金壹圓　深川佐賀町二ノ二十二　長江しげ子

累計
帽子　八百十八個
本會支出　金二百圓
先月より會員寄附金　金廿八圓（帽子製造中）

高崎支會報告

○第三總會日景況

四月九日（日曜）午後二時より高等小學校内に開會す戰爭國とて質素茶菓も式飾も一切省略したり此日は總會のこと迚來會者多く近來の盛會なり會次は左の如し

開會の辭　支會長代　幹事　相川すか子
唱歌（君ヶ代）一同起立（オルカン）　鈴本評議員
令旨捧讀　支會長代　幹事　相川すか子
庶務報告　庶務幹事代　評議員　鈴木たれ子
會計報告　幹事　齋藤れう子
祝辭附將來の希望述　特贊員　土谷全次君
耳漏に就てと云ふ題にて一場の講話あり

次に役員改選を行ふ　講師　湯淺　勝太郎君
出席役員は　相川　齋藤　相澤　栗野
秀島　財津　松木　清水
講師は　乾、湯淺、關、

○第三十三會例會

六月四日（日曜）午後二時高等小學校内に開く星野會長開會を告く
第一席講師塚越正六君「病の侵入門」と云ふ題にて虎列剌赤痢腸窒扶斯等に就き懇々述へられ時節柄出席會員に感動を與ひられたり第二席講師小林春造君「涙」と云ふ題にて涙の出る理山其必要等懇篤述へられたり閉會を告けしは午後四時なり

出席役員は
相川　齋藤　星野　本多
稻垣　相澤
講師は
塚越　小林

山形支會報告

五月十三日第二土曜日午後一時より當市なる女子師範學校内に例會を開く岩本副會長を初め幹事會員諸姉來會坂口北島兩講師出席せられ割烹實習の後左の面白き有益の講話ありて四時過散會せり

眼と婦人衛生との關係に就て　坂口格太郎君

米澤支會總會

四月九日第二日曜日午後一時より例會をひらき左の講話ありて四時散會せり

一家庭看護法　矢島講師

一子宮出血に就て　猪股講師

四月廿三日第四日曜日午後一時より松岬舘に於て例會をひらく左の講話ありて四時散會

一家庭看護法　矢島講師

一赤見の眼病に就て　宮崎講師

米澤支會總會報告

五月十四日第二日曜午前八時より松岬舘に於て總會を開く會員着席終るや加藤副會長開會の辭を述べられ次に楠川講師の「インフルエンザ」に就ての注意の話矢島講師の眼病の話決算報告等終りて茶菓を饗し午後より餘興に移る第一蓄音器、第二松山夫人、第三楠川夫人、第四野間夫人、生田流高尚なる彈琴あり又琴三味線の合奏山田會員舞等何れも種々のかくし藝を出だされたり終りに二三の遊戲ありて午後五時頃散會せり

左の歌は當日講師たちの會場にてよまれたるものなりと

色も香もあれど互にかくし藝　矢島先生
はづかしからぬ葉櫻の陰

色も香もあらぬと見へて葉櫻の　猪股
今やむかしをしのはるゝかな

出席講師左の如し

楠川　矢島　宮崎
中條　猪股の諸講師

米澤支會に寄附せられし人名

一金壹圓　田中德行
一金五拾錢　三島てつゑ子
一金壹圓　仁科盛忠
一金壹圓　宮崎賢旭
一金壹圓　堀　千代子
一金五拾錢　畔柳もとゑ子
一金壹圓　中條梅節
一金壹圓　柳川良敬
一金壹圓　猪股松三郎

●右ハ一月ヨリ四月以後ニ至ル

●米澤支會收支決算報告

自明治卅七年四月
至明治卅八年三月

收入

一金百五拾八圓貳拾五錢

内譯

一金百參拾五圓四拾錢　會費

内
金百卅四圓拾錢　三十七年度分
金壹圓參拾錢　三十八年度分

一金拾八圓八拾錢　寄附金
一金四圓〇五錢　臨時會費

支出

一金百拾五圓八拾八錢五厘

内譯

一金六圓六拾六錢　備品費
一金八拾錢　印刷費
一金貳圓五拾貳錢五厘　筆墨紙費
一金六圓六錢五厘　通信及び雜誌逓般費
一金五拾貳圓四拾七錢五厘　集會費
一金壹　圓　雜費

金四十六圓參拾六錢　本會への納金

差引殘高金四拾貳圓參拾六錢五厘

茨城支會報告

春季總集會

春暖の好節を期し去五月廿一日總集會を催せり同日は曇天にもかゝはらず出席者は百五十餘名の多きに達したりき次第は左の如し

五月廿一日午前九時より茨城縣立水戶高等女學校に開會

一、開會の辭　會長代理　豐田副會長
二、唱歌　君か代二回　會員全躰
三、講話　水戶中學校長　福山義春君
四、饗食及茶菓
遊　嬉　ダンツライゲン　獨逸クワドリール　メーホルダンス　會員大森閑子擔當　女子師範學校生徒
五、會務報告
六、複音唱歌　會員中尾源子擔當　女子師範學校生徒
七、講　話　女子師範學校校長　木田蕊積君
八、衞生講話　贊成員　秋元洮二君
九、琴、オルガン合奏　會員　生田八栗子　仝　藤木蕗子

會員皆滿足を表し散會せしは午後四時頃なりしと

新潟支會報告

五月例會

五月二十八日午後一時より新潟女子高等小學校に於て例會を開く本日は地久節に相當するを以て軍人家族をも招待したるに來會者兩會員二百名軍人家族千三百名合計千五百名最初宇佐美春子兩會を代表して開會の辭を述べ次に吉田市長の軍人家族に對する演說あり右終りて茶菓の饗應をなし且餘興等あり軍人家族に大なる慰藉を與へ頗る盛大なる集會なりき

○同會幹事として非常の誠意を以て盡力せられ其後評議員として大に助力を與へられし河上ふさ子には今回東京へ轉住せらるゝこととなり評議員を辭さる

○同會顧問田代亮介氏は數年來非常なる熱心を以て盡瘁せられ同夫人てふ子にも評議員として一方ならず盡力せられしが同じく東京へ轉住せらるゝこととなり役員を辭任せらる

○又評議員神尾つや子同寺田とみ子の二氏も同會のため盡力少ならざるしの一家御轉住の爲め辭任せられたり

本會は以上諸氏に對し多年精意の御盡力を謝す

新刊紹介

醫學士　竹中成憲編

衛生寶典　全一册　定價七十錢

東京市本郷區湯島天神町二ノ卅六
鳳文堂發行

本書は素人の自家急病者などあるに際し醫者の來るまで處理すべき事柄や又常に心得置くべき病症などを通俗的に述べ其原因豫防法を論じたるものにて總論、對症療法、各論に分ち各論の部はいろは分けとなし誰人にも理解しやすからしめ假令へは「い」の部にインフルエンザ「し」の部に心臓病子宮病等あらゆる疾病を網羅したれば特に一家の母たるものゝ座右缺くべからざる良書と云ふべし



●本會入會者

○靜岡　山梨識子紹介
●靜岡縣興津町清見寺　通常會員　川原きん子

○大學　諏訪なみ子紹介
●大學病院三浦內科新室四號　通常會員　武田さく子

○芝　伊藤敏子紹介
●芝公園第二十五號ノ一　通常會員　岩垂梅子

○事務所へ申込
●山口縣吉敷郡大道村　通常會員　古谷千代子
●牛込區市谷仲町五十九　通常會員　蠣崎竹代子
●千葉縣東葛飾郡野田輪町大字上花　通常會員　大塚さく子

○日本橋　田村さよ子紹介
●日本橋區泊屋町十五　通常會員　花岡ゆき子

○麴町　久保登茂子紹介
神田區錦町一ノ七山崎氏方　通常會員　小野熊子

○長野　横內いわ子紹介
長野縣東筑摩郡松本町土井尻　通常會員　唐澤妙子

○山口　橋本貞尾子紹介
山口縣豐浦郡古江小路六七一　通常會員　平田久子

○岩田勢い子紹介
●芝區高輪南町六十六番地　特別會員　若林よね子

●高崎支會入會者

○秋元はつ子紹介
●高崎市寄合町三十九　特別會員　林くま子

○宮下きよ子紹介
高崎市連雀町四　通常會員　岩崎ひさ子

○星野きよ子紹介
仝市柳川町百八　通常會員　長堀やす子

○天利いし子紹介
仝市本町百四十四　通常會員　岡田きく子

○浦野ふじ子紹介
仝市柳川町四十八　通常會員　新井きく子

○原田つれ子改　上野つれ子

○眞名子いう子改　眞名子てる子

●新潟支會入會者

○加藤評議員紹介
仝市營所通二番町　特別會員　岡田周子

○多田幹事紹介
仝市　特別會員　伊村さん子

○古閑幹事紹介
仝市下旭町四十八　通常會員　林初子

●山形支會入會

○岩本副會長紹介
山形市　五月入會　特別會員　中川浪江子

●茨城支會入會

○水戸市　三月入會　通常會員　西原仁子

○水戸市　三月入會　通常會員　鈴木かつ子

轉會

○駒杵みはる子は東京櫻木町三十八番地に轉居と共に本會に轉ず

●本會々員種類變更

●深川通常會員ヨリ特別會員ニ改ム　特別會員　長江しげ子

弔詞

●高松　五月六日死去　小川榮子

●京都終身會員　六月死去　和辻愛子

本會は謹みて哀悼の意を表す

私立大日本婦人衛生會

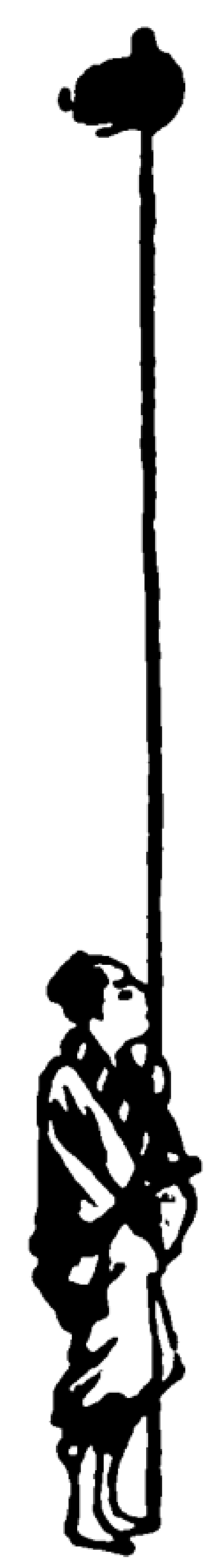
●轉居



▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願度

●京都市新宮川町五條上ルへ　宮橋まき子

●伊豫國温泉郡雄群村藤原へ　友近里子
●京都市上京區油小路椹木町上ルへ　仙田花子
●横濱市花咲町二丁目石橋氏方へ　中村笑根子
●長野縣南安曇郡豐科町へ　小林靜子
●廣島縣尾ノ道市久保町字防地へ　古富しも子
●青森縣東津輕郡大野村片岡一七三へ　山田しげき子
●奈良市内侍原町廿七番屋敷へ　澤とよ子
●青森縣上北郡野邊地町山田醫院へ　清水忠子
●麹町區平河町五ノ廿七へ　又木きく子
●神田區駿河台鈴木町二、石上方へ　北原蔣子
●牛込區南町一番地へ　島崎たけ子
●牛込區藥王寺前町八十二へ　古川のぶ子
●神田區猿樂町二ノ一、新野方へ　西村藤子
●麹町區三番町五十八中垣方へ　岡村しげ子
●麹町區中六番町四十八へ　渡邊よれ子
●信州南安曇郡温村へ　石曾根いせ子
●赤坂區青山御所鳥孫殿下假御殿へ　兒山すみ子
●群馬縣吾妻郡中ノ條町百九十五へ　宮崎松枝子



●交換寄贈雜誌（五月分）

●日本赤十字　京橋區築地二ノ二十一　日本赤十字發行所
●日本婦人　府下澁谷村字常磐松御料地内　帝國婦人協會
●新潟縣衛生會誌　新潟縣廳内　新潟縣衛生會
●日本皮革時報　本區表町五十七　益世社
●日本の家庭　神田區表神保町二　同文館
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
●東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社
●東京教育雜誌　神田區錦町一ノ二十　東京教育雜誌發行所
●をんな　麹町下二番町三十七　大日本女學會
●大阪醫學會雜誌　大阪市東區淡路町一ノ卅八　大阪醫學會
●家庭新聞　熊本市北新坪町百卅一　家庭新聞社
●家庭雜誌　麹町區中六番町十　由分社
●家庭　東京巣鴨二二五五　家庭社
●萬同答　茨城縣築波郡板橋村　萬同答社
●大日本婦人教育會雜誌　麹町區永田町一ノ十九　大日本婦人教育會
●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會
●體育　府下荏原郡大井村　日本體育會
●通俗衛生　大阪西區土佐堀通二ノ廿九　大阪私立衛生會
●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町　牟婁新報社
●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
●藥石新報　大阪西區江戸通二ノ卅六　藥業新報社
●藥業時報　神田區鍛冶町廿一　藥業時報社
●經濟新報　麹町區永田町二ノ七十三　經濟新報編輯部
●婦人世界　大阪南區末吉橋通四丁目　浪華婦人會
●婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
●婦人新報　赤坂區榎坂町五　婦人新報社
●婦人と子ども　本郷區女子高等師範學校内フレーベル會
●婦人　神戸市三ノ宮町二丁目　婦人協會

●福田會月報　麻布區笄町百三　福田會育兒院
●國家學會雜誌　本郷區富士町一　國學會雜誌發行所
●工手の母　大阪北區西野田新家西ノ町　工手の母新聞社
●衞生報知　神戸市相生町一ノ廿七　私立神戸市衞生會
●越佐教育雜誌　新潟市東仲通一番町　越佐教育雜誌社
●英學生　小石川區小日向臺町三丁目　東西社
●衞生新報　下谷區池ノ端仲町十九　衞生新報社
●愛國婦人　麹町區飯田町一丁目　愛國婦人發行所
●產科婦人科學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　產科婦人科學會
●草藥新聞　大坂市南區齋橋筋　草藥新聞社
●產婆學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本產婆學協會
●兒童教育　神田區末廣町十　童兒新聞社
●神經學雜誌　小石川區駕籠町東京醫科大學精神學教室內　日本神經學會
●廣島衞生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衞生醫事月報社
●ひじり慈門實論　愛知縣岡崎町菅生　慈善堂發行所
●北海實業新報　北海道札幌區北三條東三丁目　北海實業新報社
●東京市教育會雜誌　東京市役所內　東京市教育會
●東京小間物化粧品商報　日本橋區馬喰町二丁目　東京小間物化粧品卸商事務所
●大坂タイムス　大坂北區天神橋筋六丁目　大坂タイムス社
●家庭の友　本郷區西片町十　內外出版協會
●家庭の栞　新潟女子師範學校內　新潟縣女子教育會
●家庭　福岡市船町　家庭新聞社
●京濱實業新報　神田區北神保町　京濱實業新報社
●交通世界　埼玉縣浦和町　交通協會

●埼玉衞生新報　埼玉縣北足立郡浦和町　埼玉衞生新誌社
●書籍新報　日本橋區濱町一ノ一　帝都社
●皮革新報　大阪南區茶臼山町　皮革新報社
●京都帝國大學一覽　京都帝國大學



幼稚園保育法 夏期講習會

本會は幼稚園の發達及其保育法の進歩改良の目下の急務なるを感じ左記の要項に由りて夏期講習會を開く

明治三十八年六月

女子高等師範學校附屬幼稚園內 フレーベル會

◉學科及講師

保育原論	女子高等師範學校教授	中村五六
幼兒の躾方	華族女學校助教	野口幽香
兒童學大意	女子高等師範學校教授	黑田定治
兒童個性の研究及其取扱法	東京高等師範學校教授	松本孝次郎
幼稚園の歌唱及幼兒に唱歌を授くる方法につきて	女子高等師範學校保姆	下田鶴
幼兒の活動性及童話につきて	女子高等師範學校教授	東基吉

一、講習期限　來る七月二十一日より向十日間午前七時半ヨリ同十時半マデ

一、會場　東京市神田橋外東京府教育會內

一、會費　金壹圓(但しフレーベル會々員に限り半額)

一、聽講手續　聽講志望の向は會費を添え女子高等師範學校附屬幼稚園內フレーベル會宛て申込むべし(但し會場の都合もあればなるべく速に申込を要す)

醫學士竹中成憲著　▲小形クロス製美本

出征軍隊 **兵士の衛生**　▲十八錢　▲郵税二錢

▲戰地へは密封して郵税十八錢

右は陣中に在て兵士の心得べき衛生事項を振假名附にて說明せるものにして出征軍人への贈物及び慰問袋に入るゝに適す

東京神田表神保町　**同文館**

速記應囑

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり◎女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家飜譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

麹町區富士見町五丁目九番地　**佃速記事務所**　電話番町四十八番

竹中成憲先生著書中素人諸君に適するもの

- ▲肺結核療法（總ての療法悉集めあり）　武圓四拾五錢
- ▲肺結核豫防法（豫防攝生の方法を示す）　參錢郵劵拾八枚
- ▲産婆學（再版）（教授受驗の目的に適す）　同　參拾枚
- ▲ペスト（黑死病）（原因徵候及豫防法を示）　同　九枚
- ▲肥滿の療法（ふとりたる人やせる法）　同　九枚
- ▲救急法（怪俄の急病應急の手當）　同　拾貳枚
- ▲衛生寶典（内科諸病を一々說明す）　同　廿六枚

（皆郵税共）

東京市本郷區春木町貳丁目　**半田屋**
東京湯島天神町貳丁目卅六　**鳳文堂**
東京市神田區鍛冶町四番地　**誠之堂**

高橋齒科醫院

東京日本橋區本町二丁目（電話本局千六百六番）

診察時間　午前九時ヨリ午後五時迄

明治二十六年[illegible]四[illegible]第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢
●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七十錢（黑檢箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御購ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁貳圓二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁貳圓二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中[illegible]三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　渡邊智

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舎第一工場印刷

明治三十八年六月二十五日印刷及發行　婦人衛生雜誌第百八拾七號（毎月一回二十日發行）